

# 元總社蒼海遺跡群(44) 元總社蒼海遺跡群(45)

前橋都市計画事業元總社蒼海土地区画整理事業に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

2 0 1 3. 3

前橋市教育委員会

# 元総社蒼海遺跡群 (44) 元総社蒼海遺跡群 (45)

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

2 0 1 3. 3

前橋市教育委員会



元總社舊海遺跡群（44） 全景（上が東）



元總社舊海遺跡群（44）W-1号溝 全景（西から）



元總社蒼海遺跡群（45）全景（上が北）



元總社蒼海遺跡群（45）W-1号溝 全景（西から）

## はじめに

前橋市は、関東平野の北西部に位置し、名山赤城山を背に利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる県都です。市域は豊かな自然環境に恵まれ、2万年前から人々が生活を始めました。そのため市内のいたる所から、人々の息吹を感じられる遺跡や史跡、多くの歴史遺産が存在します。

古代において前橋台地には、広大に分布する穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ、王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上毛野国の中心地として栄えました。また、続く律令時代になってからは總社・元總社地区に山王廃寺、国分僧寺、国分尼寺、国府など上野國の中核をなす施設が次々に造られました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎧をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられる厩橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地であり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する元總社蒼海遺跡群（44）、（45）は古代上野國の中核地域の調査であります。上野国府推定地域に隣接することから、調査成果に多くの注目を集めております。今回の調査では、国府そのものに関連する遺構の検出はかないませんでしたが、奈良・平安時代の堅穴住居跡、中世の堀跡等を検出しました。

今は一本の糸に過ぎない調査成果も織り上げて行けば、国府や国府のまちの姿を再現できるものと考えております。

残念ながら、現状のままでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、この調査事業を円滑に進められたのは、関係機関や各方面のご配慮の結果といえます。また、猛暑の中、直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成25年3月

前橋市教育委員会  
教育長 佐藤博之

## 例　　言

1 本報告書は前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う元総社蒼海遺跡群（44）、（45）発掘報告書である。

2 発掘調査の要項は次のとおりである。

遺跡名	元総社蒼海遺跡群（44）、（45）
調査場所	前橋市元総社町 1582-3、2108-1、2114、2115-1、2115-2
遺跡コード	24 A 130 - 44-45
発掘・整理担当者	山田誠司（技研測量設計株式会社）
発掘調査期間	平成 24 年 8 月 20 日～平成 24 年 10 月 31 日
整理・報告書作成期間	平成 24 年 11 月 1 日～平成 25 年 3 月 22 日
3 本書の原稿執筆は I を福田貫之（前橋市教育委員会）、他を山田が担当した。本書はデジタル編集・版組により作成しており、編集作業は山田が担当した。	
4 発掘調査、及び整理作業参加者は次のとおりである。	
宇佐美義春 大川明子（技研測量設計株式会社）	
内嶋勝義 上原政男 大澤紀一 大友康之 女屋みどり 木村勝彦 栄原源市 桑原 襄 嶋村みどり	
須田ちえ子 立見昭夫 田部井美砂子 都丸ゆき子 野村精一 福島様子 益子廣治 間庭啓治	
5 本書における図面、写真、遺物は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管している。	
6 下記の機関にご指導・ご協力を賜りました。記して謝意を表します。	
山下工業株式会社	

## 凡　　例

1 挿図中に使用した北は座標北である。

2 插図に国土地理院発行 1/200,000『宇都宮』『長野』、1/25,000『前橋』、前橋市発行 1/2,500 都市計画図を使用した。

3 遺構名称は、竪穴住居跡：H、溝：W、土坑墓：D B、井戸：I、土坑：D、ピット：P、である。

4 遺構・遺物実測図の縮尺は原則的に次のとおりである。その他各図スケールを参照されたい。

遺構 竪穴住居跡・井戸・土坑・ピット・その他・・・1/60 罐・土坑墓・・・1/30 溝・・・1/100  
全体図・・・1/250

遺物 土器・石製品・・・1/3、1/4 鉄・銅製品・・・1/2 古銭・・・1/1

5 本文および表中の計測値については（ ）は現存値を、〔 〕は復元値を表す。

6 遺構図、遺物実測図のトーン表現は以下の通りである。

遺構 燃土範囲：■ 灰範囲：■ 硬化範囲：■

遺物 須恵器（還元焰）：■ 茎葉：■ 油煙・煤：■ 石器磨面：■

7 主な火山降下物等の略称と年代は次の通りである。

As-B（浅間 B 磷石：1108）、Hr-FP（榛名二ッ岳伊香保テフラ：6 世紀中葉）、

Hr-FA（榛名二ッ岳渋川テフラ：6 世紀初頭）、As-C（浅間 C 磷石：3 世紀後葉～4 世紀前半）

## 目 次

巻頭図版1

巻頭図版2

はじめに

例言・凡例

I	調査に至る経緯	1
II	遺跡の位置と環境	2
III	調査の方針と経過	
1	調査範囲と基本方針	6
2	調査経過	6
IV	基本層序	6
V	遺構と遺物	
1	元総社蒼海遺跡群（44）	
(1)	堅穴住居跡	9
(2)	溝	9
(3)	DB-1号土坑墓	10
(4)	井戸、土坑、ビット	10
2	元総社蒼海遺跡群（45）	
(1)	堅穴住居跡	19
(2)	溝	19
(3)	DB-1号土坑墓	21
(4)	地下式坑	21
(5)	井戸、土坑、ビット	21
VI	まとめ	
1	元総社蒼海遺跡群（44）	32
2	元総社蒼海遺跡群（45）	32

## 挿図目次

Fig.1	道路の位置	1
Fig.2	周辺道路図	3
Fig.3	元経社着海道路群位置図とグリッド設定図	5
Fig.4	基本層序	6
Fig.5	元経社着海道路群 (44) 全体図	7
Fig.6	元経社着海道路群 (45) 全体図	8
Fig.7	元経社着海道路群 (44) H-1号住居跡	11
Fig.8	元経社着海道路群 (44) H-2・3号住居跡、W-1号溝	12
Fig.9	元経社着海道路群 (44) W-2・4号溝、D-2・1号土坑	13
Fig.10	元経社着海道路群 (44) W-5~7号溝、DB-1号土坑墓、D-1・3号土坑、土坑群1	14
Fig.11	元経社着海道路群 (44) D-12~16・18・19・21~23・30号土坑、土坑群1	15
Fig.12	元経社着海道路群 (44) D-24・25・27~29号土坑、土坑群2、ピット	16
Fig.13	元経社着海道路群 (44) ピット、出土遺物	17
Fig.14	元経社着海道路群 (44) 出土遺物	18
Fig.15	元経社着海道路群 (45) H-1号住居跡	21
Fig.16	元経社着海道路群 (45) H-2号住居跡、W-1号溝、D-14~16・19~21号土坑	22
Fig.17	元経社着海道路群 (45) W-2~10号溝、D-13号土坑、DB-1号土坑墓	23
Fig.18	元経社着海道路群 (45) 地下式坑、I-1~4号井戸、D-1~7・17~18号土坑、P-96号ピット	24
Fig.19	元経社着海道路群 (45) D-9~12号土坑、ピット	25
Fig.20	元経社着海道路群 (45) ピット	26
Fig.21	元経社着海道路群 (45) 出土遺物	27
Fig.22	元経社着海道路群 (45) 出土遺物	28
Fig.23	元経社着海道路群 (45) 出土遺物	29
Fig.24	元経社着海道路群 (45) 周辺海城想定図	33

## 表目次

Tab.1	周辺道路一覧表	4
Tab.2	元経社着海道路群 (44) 出土遺物観察表	18
Tab.3	元経社着海道路群 (45) 出土遺物観察表	29
Tab.4	元経社着海道路群 (44)、(45) 土坑墓・井戸・土坑・ピット計測表	31

## 写真図版目次

PL.1	(44) H-1号住居跡・W-4号溝 全景、(44) H-1号住居跡 署全景、(44) H-1号住居跡 遺物出土状況 (44) H-2号住居跡 全景、(44) W-1号溝 全景、(44) W-1号溝 SPA-A'、(44) W-2号溝 SPA-A'	
PL.2	(44) W-3号溝・D-2号土坑 全景、(44) W-4号溝 全景、(44) W-5号溝 全景、(44) W-6号溝 全景 (44) DB-1号土坑墓 全景、(44) DB-1号土坑墓 人骨・古錢検出状況、(44) 土坑群1、(44) 土坑群2	
PL.3	(45) H-1号住居跡 全景、(45) H-1号住居跡 署全景、(45) H-1号住居跡 署周辺遺物検出状況 (45) H-1号住居跡 路面下遺物検出状況、(45) H-2号住居跡 全景、(45) H-2号住居跡 遺物検出状況。 (45) W-1号溝 全景、(45) W-4号溝 全景	
PL.4	(45) W-5号溝 全景、(45) W-6号溝 全景、(45) W-7号溝 全景、(45) W-8号溝 全景、(45) W-9号溝 全景 (45) W-10号溝 全景、(45) DB-1号土坑墓 全景、(45) 地下式坑 SPA-A'	
PL.5	(45) I-3号井戸 全景、(45) D-1・2号土坑 全景、(45) D-1号土坑 署検出状況、(45) D-3号土坑 全景 (45) D-3号土坑 遺物検出状況、(45) 調査区画毎ピット全景、調査風景	
PL.6	元経社着海道路群 (44)、(45) 遺物写真	
PL.7	元経社着海道路群 (45) 遺物写真	
PL.8	元経社着海道路群 (45) 遺物写真	

## I 調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い実施され、14年目にあたる。本調査地は、周辺で埋蔵文化財調査が長年にわたって行われていることから、遺跡地であることが確認されている。

平成24年7月5日付けで前橋市長 山本 龍（区画整理第二課）より前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査業務依頼が前橋市教育委員会に提出された。教育委員会では既に直営による発掘調査を実施しており、直営による調査の実施が困難であるため、民間調査組織に業務を委託するよう前橋市に回答をした。民間調査組織の導入については、依頼者である前橋市の合意も得られ、平成24年8月8日付けで前橋市と民間調査組織である技研測量設計株式会社との間で発掘調査業務契約を締結し調査を開始した。

なお、遺跡名称「元総社蒼海遺跡群（44）、（45）」（遺跡コード：24A130-44,45）の「元総社蒼海」は区画整理事業名を採用し、数字の「（44）、（45）」は過年度に実施した調査と区別するために付したものである。

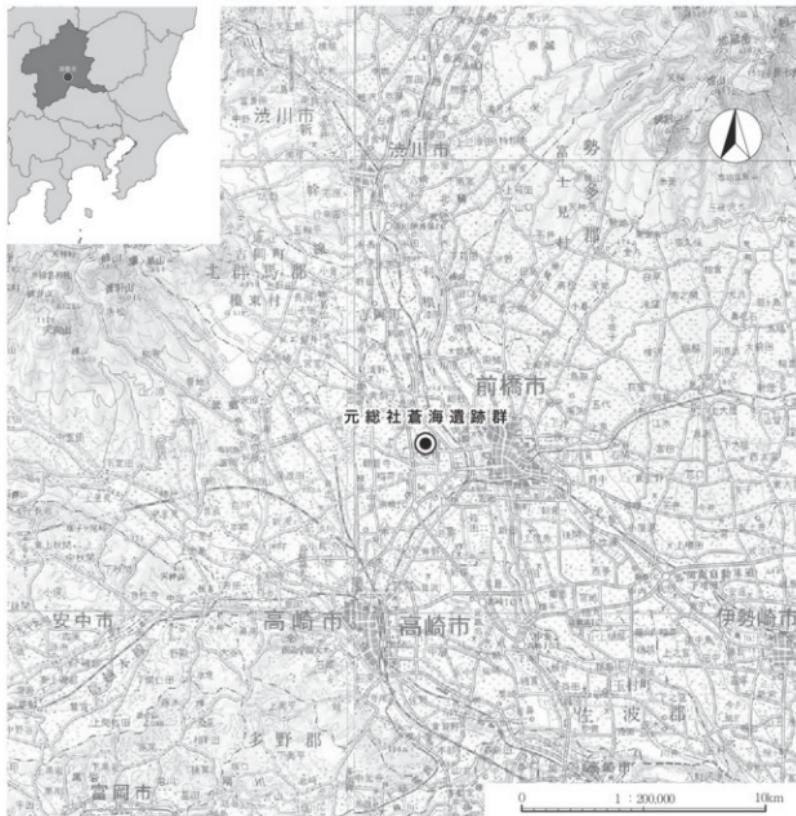


Fig.1 遺跡の位置

## II 遺跡の位置と環境

**遺跡の位置 (Fig. 1)** 本調査地は、前橋市街地から利根川を隔て、西へ約 3km の地点、前橋市元総社地内に所在し、西には関越自動車道が南北に、南には国道 17 号、主要地方道前橋・群馬・高崎線が東西に、また東には市道大友・石倉線が南北にそれぞれ走っている。本調査地の立地する地形は、前橋台地上、榛名山麓を源にする牛池川、染谷川が開析・形成した細長い微高地との比高 3 ~ 5m を測る。遺跡が立地する台地上は主として畠地として利用されているが、本遺跡地の所在する位置は現在住宅地が立ち並ぶ中心地にある。

**歴史的環境 (Fig. 2, Tab. 1)** 本遺跡が立地する元総社地域には上野国府推定地や上野国分寺を中心に連続と遺跡が広がる地域である。周辺では関越自動車道建設や区画整理事業等に伴う発掘調査が行われており、多くの遺物・遺構が確認されている。本遺跡周辺地域における時代ごとの遺跡の概要是以下の通りである。

縄文時代の遺跡は八幡川右岸の微高地上に産業道路東 [15]・産業道路西 [16]・總社閑泉明神北Ⅲ遺跡 [61]、本遺跡の立地する牛池川右岸台地上に上野国分僧寺・尼寺中間地域 [22]・元総社小見Ⅲ遺跡 [59]・元総社蒼海遺跡群 [24] などが挙げられ、堅穴住居跡が確認されている。

弥生時代の遺跡としては日高遺跡 [18]・[19]、上野国分僧寺・尼寺中間地域 [22]、正觀寺遺跡 [21] 等があるがその分布は散漫である。

古墳時代になると本遺跡周辺の区域は県内でも中心的な地域であったことが窺われる。それを示すものとして總社古墳群が挙げられ、古墳時代後期・終末期に至り、王山古墳 [7]・二子山古墳 [12]・愛宕山古墳 [10]・宝塔山古墳 [13]・蛇穴山古墳 [8] 等の首長墓が多数築造された。

奈良・平安時代に至ると、本遺跡周辺は上野国府・国分寺 [2]・国分尼寺 [3]・山王庵寺 [4] の建設に示されるように古代の政治・経済・文化の中心地として再編成される。

上野国府は本遺跡付近の区域におよそ 900 m 四方に推定され、関連遺跡として元総社小学校校庭遺跡 [14]・元総社寺田遺跡 [43]・元総社宅地遺跡 [55] などがある。また元総社明神遺跡 [24] では南北方向の溝跡、閑泉橋遺跡 [25] では東西方向の大溝が確認され、国府域の東外郭線が想定された。

国分寺は昭和 55 年以降の調査により、主要伽藍の礎石、築垣、樋等が確認されている。国分尼寺は昭和 44・45 年のトレンチ調査により伽藍配置が推定され、その後平成 12 年度試掘調査、元総社蒼海遺跡群 (20) で調査が行われた。調査の結果、南大門想定位置の前面で瓦敷遺構等が確認されている。関連遺跡として中尾遺跡 [17]・鳥羽遺跡 [20]・上野国分僧寺・尼寺中間地域 [22] などが挙げられる。

山王庵寺は昭和 3 年に日枝神社境内が「山王塔址」として国指定史跡となり、その後昭和 49 ~ 56 年にかけて 7 次にわたる本格的な発掘調査が行われた。この調査で金堂の検出および「放光寺」鏡書の平瓦出土により山王庵寺が「山ノ上碑」「上野国交替実録帳」にみられる「放光寺」であることが有力視されるようになった。平成 9 ~ 11 年の調査でも土坑から大量の塑像が出土し、平成 18・19 年度調査では北・東・西面、平成 20 年度調査では南面の回廊を検出している。

また本遺跡の南約 1.5km には N - 64° - E 方向に東山道（国府ルート）が、日高遺跡 [19] では幅約 4.5m の推定日高道が国府方向へ延びると推定されている。これらは当時の交通網を物語る重要な遺構である。

室町時代になると上野国守護上杉氏から守護代に任命された長尾氏が蒼海城を本拠地としこの地を治めた。元総社蒼海遺跡群では蒼海城の堀跡や、南宋～元時代の青白磁梅瓶が出土している。また本遺跡周辺には屋敷に堀を巡らした城館跡が数多く認められる。大渡道場遺跡 [71] の貨幣埋納遺構では 572 枚に及ぶ銭貨が燃粧を通じた「繩」の状態で六縄出土した。

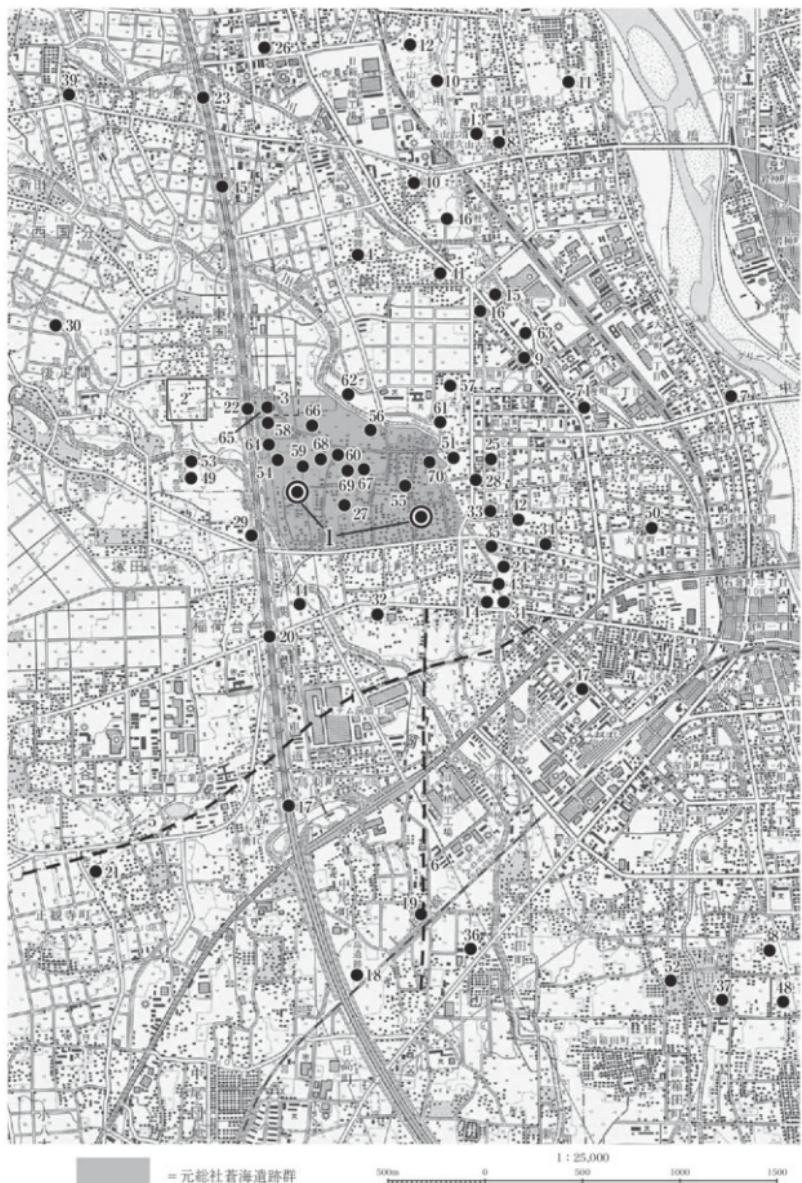


Fig. 2 周辺遺跡図

Tab. 1 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	調査年度	時代・主な遺構・出土遺物
1	元和村後山遺跡〔41〕・〔45〕	2012	平安・木造地
2	上野四合分室（便携柵）	1980・88	奈良・全室北向・附基壇
3	上野四合分室	1999	奈良・西面掘・施用漆器
4	上野四合分室	1994	奈良・横心窓・附春台・全室北向・漆器執事・回廊残石
5	東日出町（廃宅）	—	—
6	巨西町（廃宅）	—	—
7	王古山墳	1972	古墳・扇形覆面墳（6 c m）
8	船穴古墳	1975	古墳・方墳（7 c m）
9	梅雨前古墳	1998	古墳・円墳（4 c m 径）
10	愛宕古墳	1996	古墳・円墳（7 c m 径）
11	道見古墳	未調査	古墳・前方後円墳（5 c m 径）
12	越木王子古墳	未調査	古墳・扇形覆面墳（6 c m）
13	定山古墳	未調査	古墳・方墳（7 c m 径）
14	元和村小林町松原遺跡	1962	平安・掘立建物跡・柱穴跡・周邊
15	庵原路遺跡	1960	平安・瓦礫
16	庵原路遺跡	—	—
17	中尾跡（事業用）	1976	奈良・平成・住居跡
18	巨呂跡（事業用）	1977	奈良・大規模・方形溝渠・住居跡・木製柵目・平安・多条制木回廊
19	巨呂跡（跡跡）	1976	奈良・大規模
20	島日出跡（農耕跡）	1978・82	古墳・刀削跡・水路遺跡・奈良・平安・住居跡・解立建物跡・林野跡
21	正経寺跡〔1・2〕（高馬台）	1979・81	奈良・刀削跡・古墳・住居跡・奈良・平安・住居跡・少室・塗跡
22	上野四合分室・延弓山周辺遺跡（事業用）	1980・83	鍾文・瓦礫・配石構築・生土・住居跡・方形溝渠・古墳・住居跡
23	北原遺跡〔跡跡〕	1982	鍾文・大規模・石造遺跡・古墳・水井跡・奈良・平安・住居跡・施用漆器
24	元和村明神跡〔1・2〕（高馬台）	1982・96	古墳・瓦礫・田耕跡・無構・奈良・平安・住居跡・溝跡・古墳・住居跡
25	坂見跡（廃宅）	1983	奈良・平安・溝跡
26	坂木村跡・正見跡	1985・1986	奈良・平安・住居跡・溝跡
27	豊作跡	1984	古墳・刀削跡・古墳・住居跡・中世・井戸跡
28	坂見跡赤堀跡	1985	古墳・刀削跡・奈良・平安・溝跡
29	坂井町東側跡（坂井町）	1985	平安・瓦礫
30	坂元河原遺跡〔1・2〕（坂井町）	1985・87	古墳・刀削跡・奈良・平安・住居跡・中世・道路状況
31	今田跡	1986	平安・瓦礫
32	大神跡・玉津跡	1986・88	奈良・平安・住居跡
33	坂井跡・玉津跡	1986・95	古墳・刀削跡・平安・住居跡・中世・輪郭・石造遺跡
34	坂見跡	1987	奈良・平安・住居跡・溝跡
35	大友山跡・箕面跡	1987	古墳・瓦礫・平安・住居跡・溝跡・地下式土坑
36	櫛只跡	1987	平安・大規模
37	村浪跡	1987	平安・瓦礫・水井跡・水槽
38	坂元河原跡	1987	平安・大規模
39	坂元河原跡	1988	鍾文・刀削跡・平安・住居跡・溝跡
40	村東跡	1988	古墳・瓦礫・奈良・平安・住居跡・中世・輪郭
41	白子山跡・青井跡・土井跡	1989	奈良・平安・住居跡
42	柳城立堀跡	1989	平安・瓦礫
43	元和村学校跡〔1〕（事業用）	1989・91	古墳・瓦礫・溝跡・奈良・平安・住居跡・中世・溝跡
44	柳城立堀・正見跡	1990	平安・瓦礫
45	坂井跡・玉津跡	1990・95	古墳・瓦礫・平安・住居跡
46	四合分室跡（事業用）	1990	古墳・刀削跡・奈良・平安・住居跡
47	四合分室跡	1991	古墳・刀削跡・奈良・平安・住居跡
48	四合分室跡（坂井町）	1991	古墳・刀削跡・奈良・平安・住居跡・中世・輪郭
49	坂井町東側跡	1992	鍾文・瓦礫・古墳・住居跡・奈良・平安・住居跡・施用漆器・中世・溝跡
50	大友山跡・箕面跡	1998	平安・瓦礫
51	坂井町東側跡・箕面跡	1999	古墳・刀削跡・水井跡・溝跡・中世・溝跡
52	坂井町西側跡	1999	古墳・瓦礫・溝跡・平安・水槽
53	元和村西側遺跡（事業用）	2000	古墳・刀削跡・鳥糞・奈良・平安・住居跡・溝跡
54	元和村小森遺跡	2000	鍾文・瓦礫・古墳・住居跡・奈良・平安・住居跡・施用漆器・中世・沟跡
55	元和村東側遺跡・23丁シングル	2000	古墳・刀削跡・平安・住居跡・施用漆器・中世・溝跡・鳥糞・奈良・平安・住居跡
56	元和村小林内笠置跡	2001	古墳・瓦礫・溝跡・中世・瓦井・刀削跡・解立建物跡・溝跡・平安・解立建物跡・溝跡
57	坂井町坂本大吉西側跡	2001	奈良・平安・住居跡・溝跡・中世・瓦井・刀削跡・溝跡
58	坂井町坂本大吉北側跡	2001	古墳・刀削跡・溝跡・平安・住居跡・溝跡
59	元和村小林内笠置跡	2002	古墳・刀削跡・溝跡・中世・瓦井・平安・住居跡・溝跡・中世・溝跡・施用漆器
60	元和村小林内笠置跡	2002	奈良・平安・住居跡・解立建物跡・溝跡・中世・土壁
61	坂井町坂本大吉西側跡	2002	古墳・刀削跡・奈良・平安・住居跡・溝跡
62	坂井町坂本北側跡（事業用）	2002	鍾文・瓦礫・古墳・古井・平安・住居跡・溝跡・中世・解立建物跡・水井跡・大巷蓋
63	梅雨前遺跡（事業用）	2003	古墳・刀削跡・奈良・平安・住居跡・溝跡・施用漆器・瓦井跡
64	元和村小林万葉跡	2003	鍾文・瓦礫・古墳・住居跡・奈良・平安・住居跡・中世・溝跡
65	元和村小林万葉跡	2003	鍾文・瓦礫・古墳・住居跡・奈良・平安・住居跡・中世・解立建物跡
66	元和村坂本大吉跡	2003	古墳・鸟糞・中世・瓦井
67	元和村小林内笠置跡	2003	奈良・平安・住居跡・溝跡・中世・瓦井・住居跡
68	元和村坂本大吉跡	2004	奈良・平安・住居跡・中世・溝跡
69	元和村小林内笠置跡	2004	奈良・平安・住居跡・中世・溝跡

番号	遺跡名	調査年度	時代・主な遺構・出土遺物
69	元總社小瓦山古墳群	2004	古墳：白泥跡、卷瓦、平安：住居跡、工作間跡、粘土保側用、中世：溝跡、土壤基
70	起付面設置群V遺跡	2004	古墳：白泥跡、卷瓦、平安：住居跡
-	元總社善海遺跡群（1）	2005	古墳：平安：住居跡、溝跡、中世：溝跡、土壤基
-	元總社善海遺跡群（2）	2005	古墳：平安：住居跡、溝跡、中世：溝跡、土壤基
-	元總社善海遺跡群（3）・元總社小瓦屋遺跡	2005	古墳：白泥跡、古墳：住居跡、卷瓦、平安：住居跡
-	元總社善海遺跡群（4）	2005	古墳：白泥跡、古墳：住居跡、卷瓦、平安：住居跡
-	元總社善海遺跡群（5）	2005	古墳：白泥跡、卷瓦、平安：住居跡、溝跡、中世：周溝状遺構、土壤基
-	元總社善海遺跡群（6）	2005	古墳：平安：住居跡、溝跡、中世：溝跡、土壤基
-	元總社善海遺跡群（7）	2005	古墳：平安：住居跡、溝跡
-	元總社善海遺跡群（8）	2006	古墳：平安：住居跡
-	元總社善海遺跡群（9）・（10）	2006	調査：白泥跡、古墳：盤穴状遺構、卷瓦、平安：盤穴状遺構、撲立柱建物跡、溝跡、中世：溝跡
-	元總社善海遺跡群（11）	2006	古墳：白泥跡、卷瓦、平安：住居跡、中世：溝跡
-	元總社善海遺跡群（12）	2006	古墳：白泥跡、卷瓦、平安：住居跡、中世：升円形
-	元總社善海遺跡群（13）	2006	古墳：白泥跡、古墳：住居跡、卷瓦、平安：住居跡、工作間跡、中世：溝跡、土壤基
-	元總社善海遺跡群（14）	2006	古墳：白泥跡、古墳：住居跡、卷瓦、平安：住居跡、撲立柱建物跡、中世：溝跡、盤穴状遺構、井口跡
-	元總社善海遺跡群（15）	2006	古墳：平安：住居跡、卷瓦、中世：溝跡
-	元總社善海遺跡群（16）	2006	古墳：平安：住居跡、卷瓦、中世：溝跡
-	元總社善海遺跡群（17）	2006	古墳：平安：住居跡、卷瓦、平安：住居跡、盤穴状遺構、中世：溝跡、上圓基、井口跡、溝跡
-	元總社善海遺跡群（18）	2006	平安：住居跡
-	元總社善海遺跡群（19）	2006	古墳：平安：住居跡、中世：升円形
-	元總社善海遺跡群（20）	2006	古墳：白泥跡、卷瓦、平安：住居跡、盤穴状遺構、溝跡、中世：土壤基、溝跡
-	元總社善海遺跡群（21）	2006	中世：青面城の施設跡、盛土：状遺構
-	元總社善海遺跡群（22）	2009	古墳：白泥跡、卷瓦、平安：住居跡
-	元總社善海遺跡群（23）	2009	古墳：白泥跡、平安：上圓基、中世：青面城の施設跡
-	元總社善海遺跡群（24）	2009	調査：白泥跡、古墳：住居跡、卷瓦、平安：住居跡、盤穴状遺構、中世：方型堅穴、井口跡
-	元總社善海遺跡群（25）	2009	古墳：白泥跡、平安：住居跡、中世：南宋～元代の白釉磁瓶軸と軸体
-	元總社善海遺跡群（27）	2009	古墳：白泥跡、地表遺跡、古代：住居跡、撲立柱建物跡、盤穴状遺構、中世：輪郭、盤穴状遺構
-	元總社善海遺跡群（28）	2009	古墳：白泥跡、溝跡、古墳：住居跡、卷瓦：状遺構、中世：輪郭
-	元總社善海遺跡群（29）	2009	古墳～第一層：撲立柱建物跡、中世：青面城の施設跡、地下水式糞、青面城の施設跡
-	元總社善海遺跡群（30）	2009	古墳：白泥跡、平安：住居跡、中世：追跡状遺構、土壤基、火葬基、輪郭
-	元總社善海遺跡群（31）	2009	古墳：白泥跡、中世：追跡状遺構、土壤基、青面城の施設跡
-	元總社善海遺跡群（34）	2010	卷瓦、平安：住居跡、中世：青面城の施設跡
-	元總社善海遺跡群（35）	2010	卷瓦、平安：住居跡、卷瓦、平安：住居跡、撲立柱建物跡、盤穴状遺構
-	元總社善海遺跡群（36）	2010	古墳：平安：住居跡、水路、追跡状遺構、中世：土壤基
-	元總社善海遺跡群（37）	2011	古墳：白泥跡、平安：住居跡、卷瓦：状遺構
71	大堀遺跡	2011	古墳：木造構造、平安：住居跡、中世：貨幣納糞遺構、撲立柱建物跡、地下水式糞、土壤基、火葬基、火葬跡、溝跡、盤穴状遺構

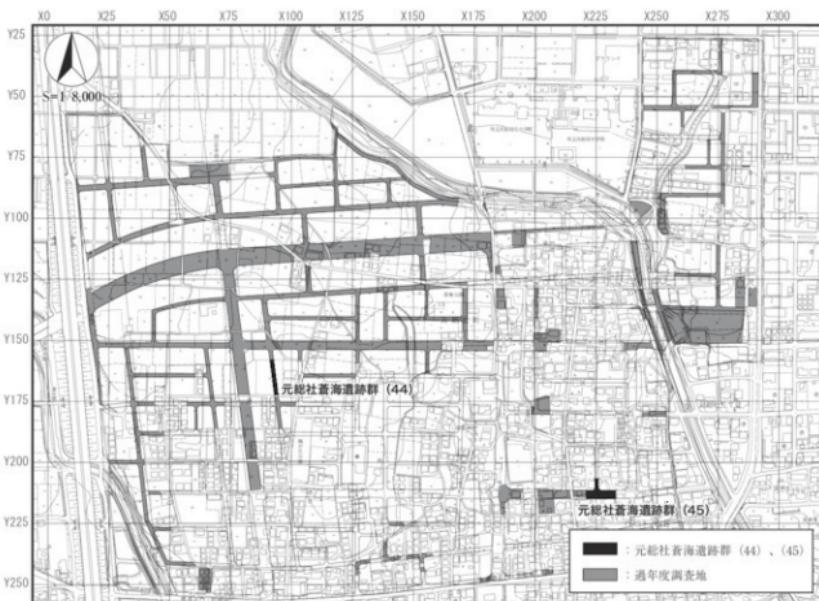


Fig. 3 元総社著海遺跡群位置図とグリッド設定図

### III 調査の方針と経過

#### 1 調査範囲と基本方針

委託調査箇所は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業の道路予定地であり、調査面積は(44) 320 m<sup>2</sup>、(45) 660 m<sup>2</sup>である。グリッド座標については国家座標（日本測地系第IX系）X = 44000.000、Y = -72200.000を基点とする4mピッチのものを使用し、経線をX、緯線をYとして北西隅を基点に番付して呼称とした。各調査区の公共座標は次のとおりである。

測点	日本測地系（第IX系）	世界測地系（第IX系）
(44) X 91、Y 158	X = 43368.000 m、Y = -71836.000 m	X = 43722.910 m、Y = -72127.757 m
(45) X 220、Y 210	X = 43160.000 m、Y = -71320.000 m	X = 43514.912 m、Y = -71611.766 m

発掘調査は遺構確認面まで重機（0.25・0.45バッカホー）にて表土掘削を行ない、遺構確認、遺構掘り下げ、遺構精査、測量・写真撮影の手順で実施した。遺構調査については土層の堆積状況を確認するため、土層ベルトを適宜設定した。なお、住居跡の遺物に関しては、床面直上や遺構に伴うと判断したものはNo遺物とし、他の覆土中の破片等については一括遺物として取り上げた。

遺構の記録には、図面作成はトータルステーション・電子平板を用いての測量・編集を行ない、断面図については一部オルソフォトに変換して編集を行なった。記録写真は35mmモノクロ・リバーサル、デジタルカメラの3種類を用いて撮影し、調査区全景撮影についてはラジコンヘリコプターによる空中撮影を実施した。

#### 2 調査経過

発掘調査は過去の調査歴から、蒼海城に伴う大規模な堀跡が続くと想定される(45)から調査を開始した。平成24年8月20日より表土掘削を実施し、遺構確認作業を実施した。以降、順次調査を進め、9月25日に(45)での全景撮影を行ない、9月30日に埋め戻しを完了した。(44)は表土掘削を9月26日より開始し、10月24日に全景撮影を行ない、10月27日に埋め戻しを完了した。10月31日までにブレハブ・器材等の搬出を完了し、現地での発掘調査を終了した。

### IV 基本層序

各調査地点において、良好な堆積状況の確認できる場所を基本層序とした。遺構確認面は(44)がVI層上面、(45)がV層上面である。なお、後述するが(44)のV・VI層は粘性が非常に強く、この層を目的に採掘したと思われる土坑群を検出している。

元総社蒼海遺跡群(44) 基本層序

I 表土
II 黒褐色土 (10YR4/6)
III 研磨褐色土 (10YR4/2)
IV 黑褐色土 (10YR2/2)
V 黑褐色土 (10YR2/2)
VI 研磨褐色土 (10YR3/4)
VII 黑褐色土 (10YR6/2)
VIII 研磨褐色土 (10YR6/2)
IX 黑褐色土 (10YR3/4)
X 黑褐色土 (10YR4/6)

元総社蒼海遺跡群(44)



元総社蒼海遺跡群(45) 基本層序

I 表土
II 黒褐色土 (10YR4/4)
III にふい黄褐色土 (10YR4/3)
IV 黑褐色土 (10YR2/3)
V 黑褐色土 (10YR4/6)

元総社蒼海遺跡群(45)

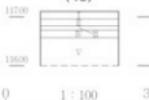


Fig. 4 基本層序

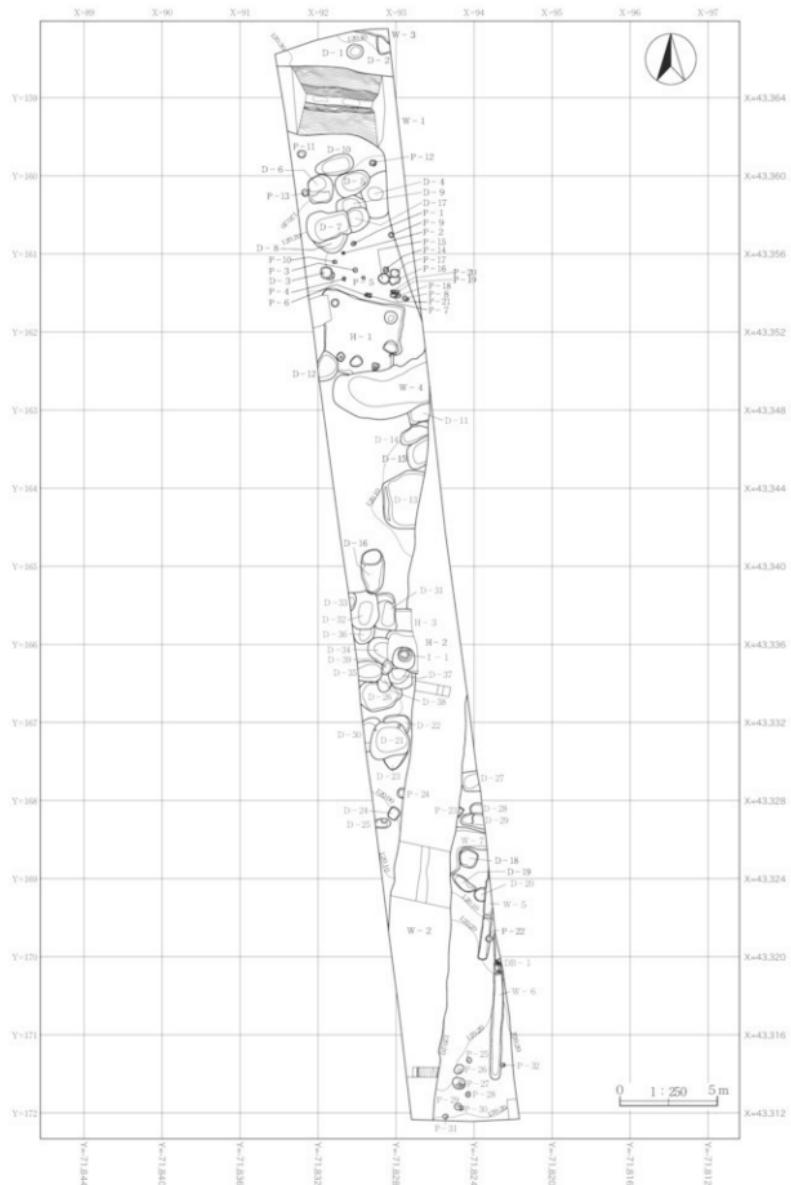


Fig. 5 元絶社海跡群(44) 全体図



Fig. 6 元穂社蒼海遺跡群(45)全体図

## V 遺構と遺物

### 1 元総社蒼海遺跡群（44）

#### （1）竪穴住居跡

##### H-1号住居跡（Fig. 7・13, PL 1）

位置 X 92、Y 161・162 主軸方向 N - 89° - E 規模 東西軸 395 m、南北軸 364 m、現壁高 0.28 m。面積 (13.62) m<sup>2</sup> 床面 ほぼ平坦で暗褐色・黄褐色土による貼り床、部分的に地山硬化床となる。竪周辺の硬化が顕著。竪 東壁に位置する。確認長 0.96 m、燃焼部幅 0.63 m を測る。袖石が残存する。重複 W-4、D-12 と重複し、新旧関係は本遺構→W-4、D-12 である。出土遺物 須恵器蓋（1）、須恵器坏（2、3）、土師器台付壺（4）、鉄製品（5）を図示。時期 出土遺物の傾向から 9世紀後半～10世紀前半と想定される。

##### H-2号住居跡（Fig. 8・13, PL 1）

位置 X 92・93、Y 165・166 主軸方向 N - 88° - E 規模 東西軸 (0.86) m、南北軸 (1.18) m、現壁高 0.38 m。面積 (3.44) m<sup>2</sup> 床面 ほぼ平坦な地山硬化床。重複 H-3、W-2、I-1、D-34・37・39 と重複し、新旧関係は H-3、I-1、D-34・37・39、I-1 → 本遺構である。出土遺物 土師器坏（1）を 1 点を図示。時期 出土遺物の傾向から 8世紀中頃から後半と想定される。備考 平面形態と平坦な床面をもつため住居として扱っているが、周辺の土坑群の一部である可能性も考えられる。

##### H-3号住居跡（Fig. 8）

位置 X 93、Y 165 主軸方向 N - 90° - E 規模 東西軸 (0.42) m、南北軸 (0.56) m、現壁高 0.16 m。面積 (1.02) m<sup>2</sup> 床面 ほぼ平坦な地山硬化床。重複 H-2、D-31 と重複し、新旧関係は本遺構→H-2、D-31 である。出土遺物 須恵器壺が 1 点出土しているが、小破片のため図示できず。時期 周辺遺構との重複関係から 8世紀代と想定される。備考 H-2号住居跡と同様に、周辺の土坑群の一部である可能性も考えられる。

#### （2）溝

##### W-1号溝（Fig. 8, PL 1）

位置 X 91～93、Y 158～161 主軸方向 南北方向 N - 6° - W、東西方向 N - 94° - E 規模 長さ (14.65) m、上幅 3.42 m、下幅 0.43 m、深さ 2.53 m。形状等 北東から南西に走行し、調査区北西側で L 字に折れ、調査区外へ続く。断面は V 字形に近い台形状を呈し、底面はやや平坦である。重複 D-4 と重複し、新旧関係は D-4 → 本遺構である。出土遺物 瓦、須恵器、土師器、陶磁器類等が出土しているが、小破片のため図示には至らず。時期 規模・形状等から蒼海城に間連する施設の可能性が考えられ、15世紀代と想定される。

##### W-2号溝（Fig. 9・13, PL 1）

位置 X 93、Y 162～172 主軸方向 N - 3° - E 規模 長さ (37.42) m、上幅 2.68 m、下幅 0.31 m、深さ 1.92 m。形状等 北東から南西に走行し、断面は緩やかな V 字形を呈する。重複 H-2・3、W-4・7、D-11・13～14・27 と重複し、いずれの遺構よりも後出する。出土遺物 かわらけ（1）、紡錘車（2）の 2 点を図示している。紡錘車については、破損した須恵器を転用したものである。時期 W-1号溝と同様に、15世紀代と想定される。

##### W-3号溝（Fig. 9、PL 2）

位置 X 92、Y 158 主軸方向 N - 99° - E 規模 長さ (18.7) m、上幅 0.83 m、下幅 0.71 m、深さ 0.30 m。形状等 北東から南西に走行し、断面は台字形を呈する。重複 D-2 と重複し、新旧関係は D-2 → 本遺構である。出土遺物 須恵器、土師器が数点出土しているが、小破片のため図示には至らず。時期 出土遺物がなく判然としないが、形状・堆積状況等から近世と想定される。

#### **W-4号溝 (Fig. 9、PL 2)**

位置 X 92・93、Y 162 主軸方向 南北方向 N - 76° - E 規模 長さ (4.96) m、上幅 2.36 m、下幅 1.84 m、深さ 0.40 m。 形状等 南西から北東に走行し、調査区東へ続く。断面は台字形を呈する。重複 H-1、W-2、D-11と重複し、新旧関係はH-1、D-11→本遺構→W-2である。出土遺物 須恵器、土師器が出土しているが小破片のため図示には至らず。時期 重複関係から中世と想定される。

#### **W-5号溝 (Fig.10、PL 2)**

位置 X 94、Y 169 主軸方向 N - 5° - E 規模 長さ (4.69) m、上幅 0.46 m、下幅 0.24 m、深さ 0.19 m。形状等 ほぼ南北方向に走行し、断面は台形を呈する。重複 D-20、P-22と重複し、新旧関係はD-20→本遺構→P-22である。出土遺物 なし。時期 出土遺物がなく判然としないが、形状・堆積状況等から近世と想定される。

#### **W-6号溝 (Fig.10、PL 2)**

位置 X 93・94、Y 169～171 主軸方向 N - 2° - E 規模 長さ (7.54) m、上幅 0.45 m、下幅 0.31 m、深さ 0.16 m。形状等 ほぼ南北方向に走行し、断面は台形を呈する。北西を走行するW-5号溝と類似する。重複 DB-1、P-32と重複し、新旧関係は本遺構→DB-1・P-32である。出土遺物 土師器が1点出土しているが、小破片のため図示には至らず。時期 出土遺物がなく判然としないが、重複関係等から近世と想定される。

#### **W-7号溝 (Fig.10、PL 2)**

位置 X 94、Y 168 主軸方向 N - 4° - W 規模 長さ (3.31) m、上幅 0.82 m、下幅 0.49 m、深さ 0.13 m。形状等 ほぼ東西方向に走行しW-2号溝東側でL字折れる。断面は底面が不整形な台形を呈する。重複 W-2と重複し、新旧関係は本遺構→W-2である。出土遺物 なし。時期 出土遺物がなく判然としないが、重複関係等から近世と想定される

#### **(3) DB-1号土坑墓 (Fig.10、PL 2)**

位置 X 94、Y 170 主軸方向 N - 2° - E 規模 長軸 0.81 m、短軸 (0.42) m、深さ 0.12 m。形状等 平面楕円形を呈する。人骨出土状態 残存状態は比較的良好で、頭部は欠くものの肋骨から骨盤にかけて残存する。出土状況から北頭位と考えられる。重複 W-6と重複し、新旧関係はW-6→本遺構である。出土遺物 覆土中より古銭（銭種は判読不明）1点を確認した。出土位置は頭位側と想定される。時期 形状、重複関係から近世と考えられる。

#### **(4) 井戸、土坑、ピット (Fig.10～12、PL 2)**

今回の発掘調査では井戸1基、土坑39基、ピット32基を確認している。特に土坑は、大きく2箇所での纏まりを見て取れる。検出状況等から、基本層序のⅣ層の灰黄褐色粘質土を目的とした採掘坑の可能性も指摘されるものであり、周辺の遺跡でも類例が確認されている。各計測値については「Tab. 4 元総社蒼海遺跡群 (44)、(45) 土坑墓・井戸・土坑・ピット計測表」を参照のこと。

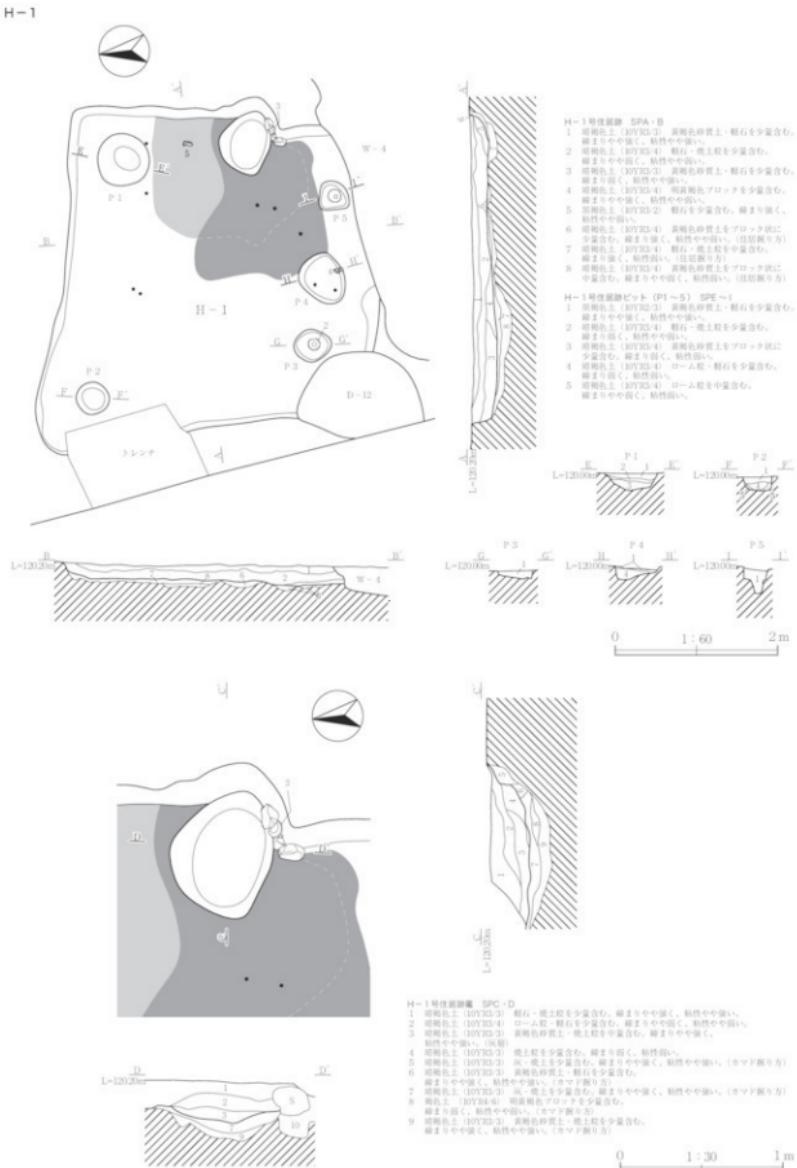


Fig. 7 元祐社舊址遺跡群(44) H-1號住居跡

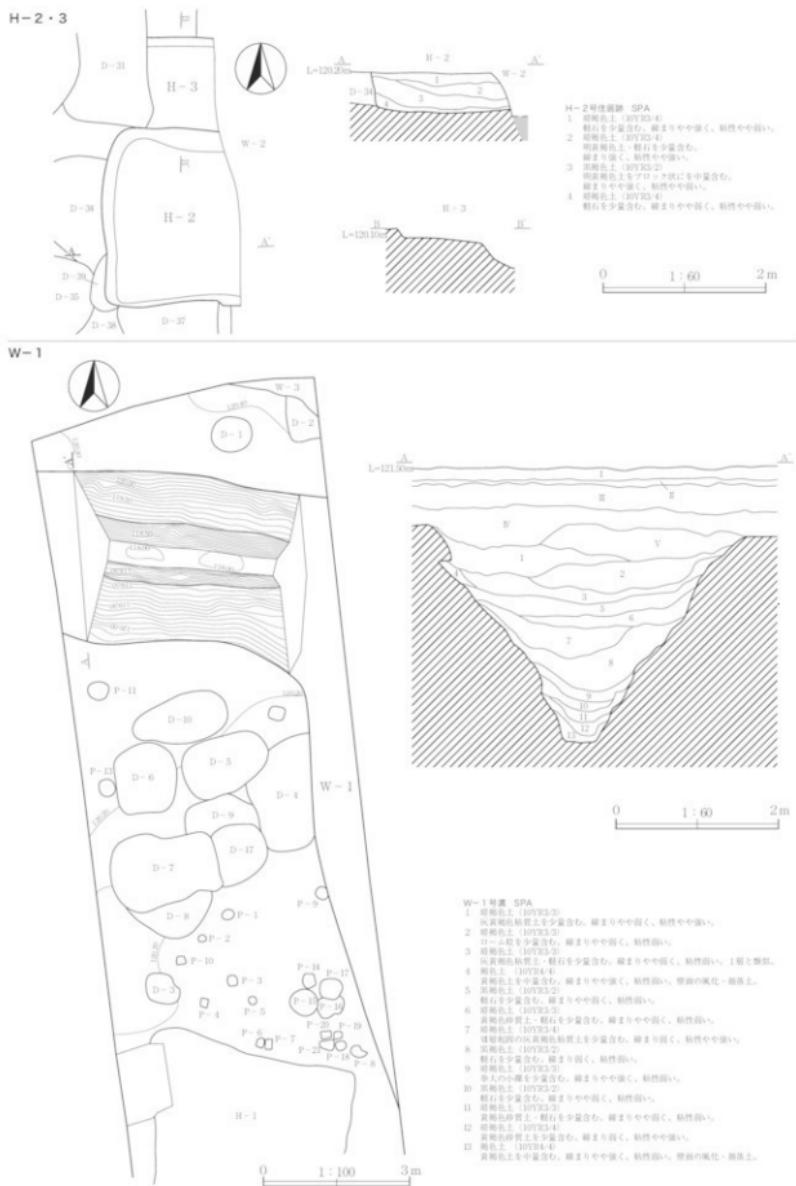


Fig.8 元絶社蒼海遺跡群(44)H-2・3号住居跡、W-1号溝

W-2

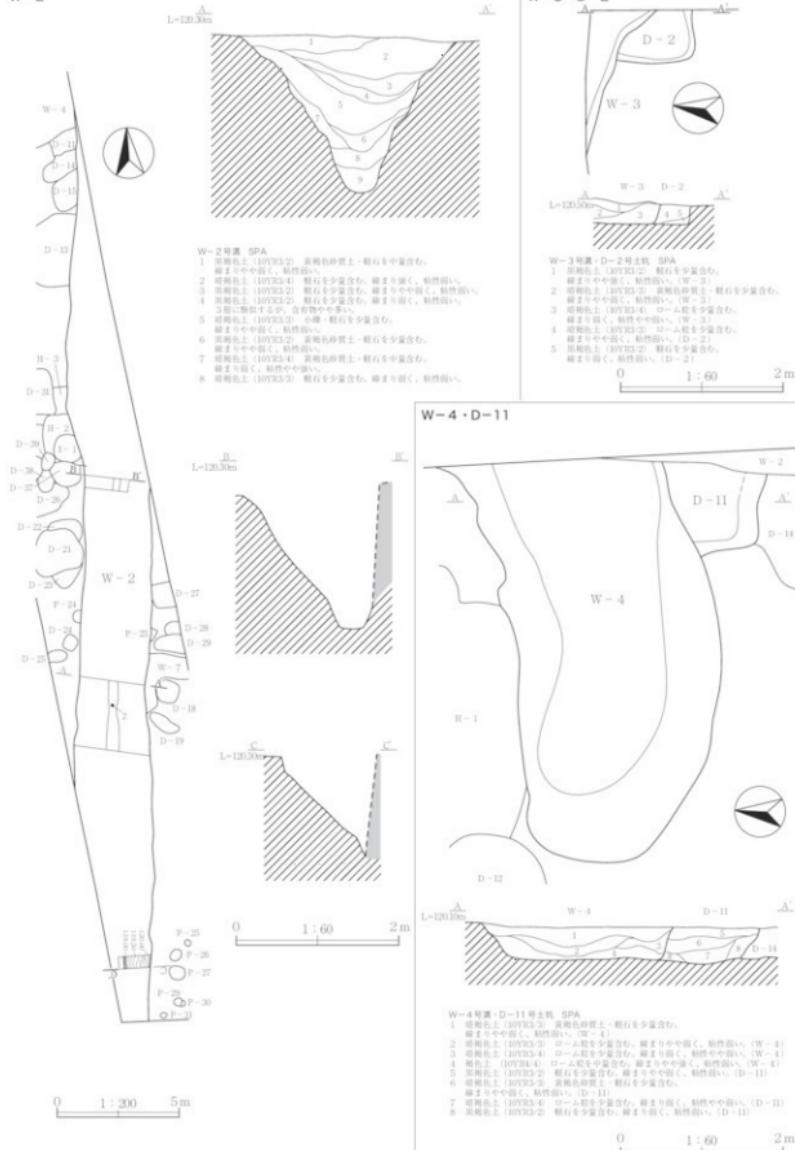
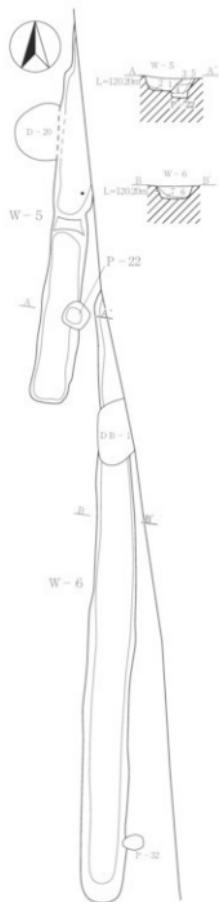
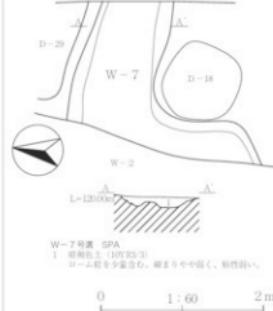


Fig. 9 元絶社蒼海遺跡群 (44) W-2～4号溝、D-2・11号土坑

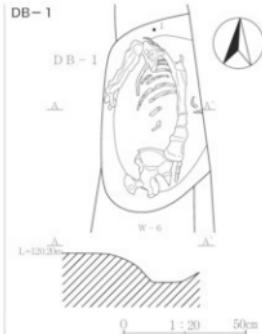
## W-5・6、P-22



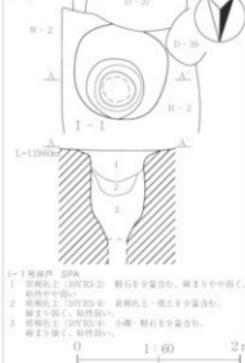
## W-7



## DB-1



## I-1



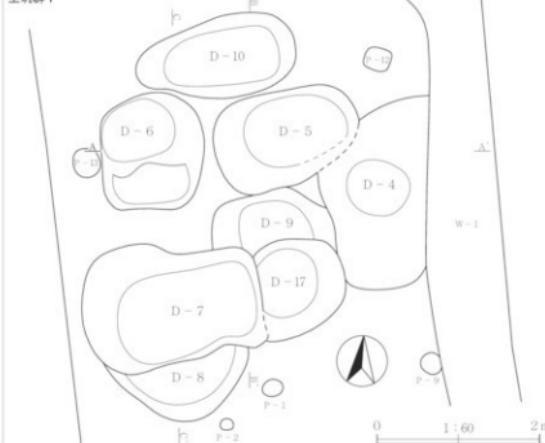
## D-1



## D-3



## 土坑群1



- W-5・6号溝 P-22号ビット SPA-B  
 1 基礎地 (10732-3) 黃褐色地・軽石を少量含む。  
 細密さや中弱く。粘性弱い。  
 2 基礎地 (10732-4) 黄褐色地。地土を少量含む。  
 細密さや中弱く。粘性弱い。(W-5)  
 3 基礎地 (10732-4) 小窓・軽石を少量含む。  
 細密さや強く。粘性弱い。  
 4 基礎地 (10732-2) 軽石を少量含む。  
 細密さや弱く。粘性弱い。(P-22)  
 5 基礎地 (10732-2) 黄褐色地。地土を少量含む。  
 細密さや強く。粘性弱い。(P-22)  
 6 基礎地 (10732-4) 軽石・ローム粘土を少量含む。  
 細密さや強く。粘性弱い。(P-6)  
 7 基礎地 (10732-2) 黄褐色地。地土を少量含む。  
 細密さや中弱く。粘性弱い。(P-6)

Fig10 元總社舊海遺跡群 (44) W-5～7号溝、DB-1号土坑墓、D-1・3号土坑、土坑群1

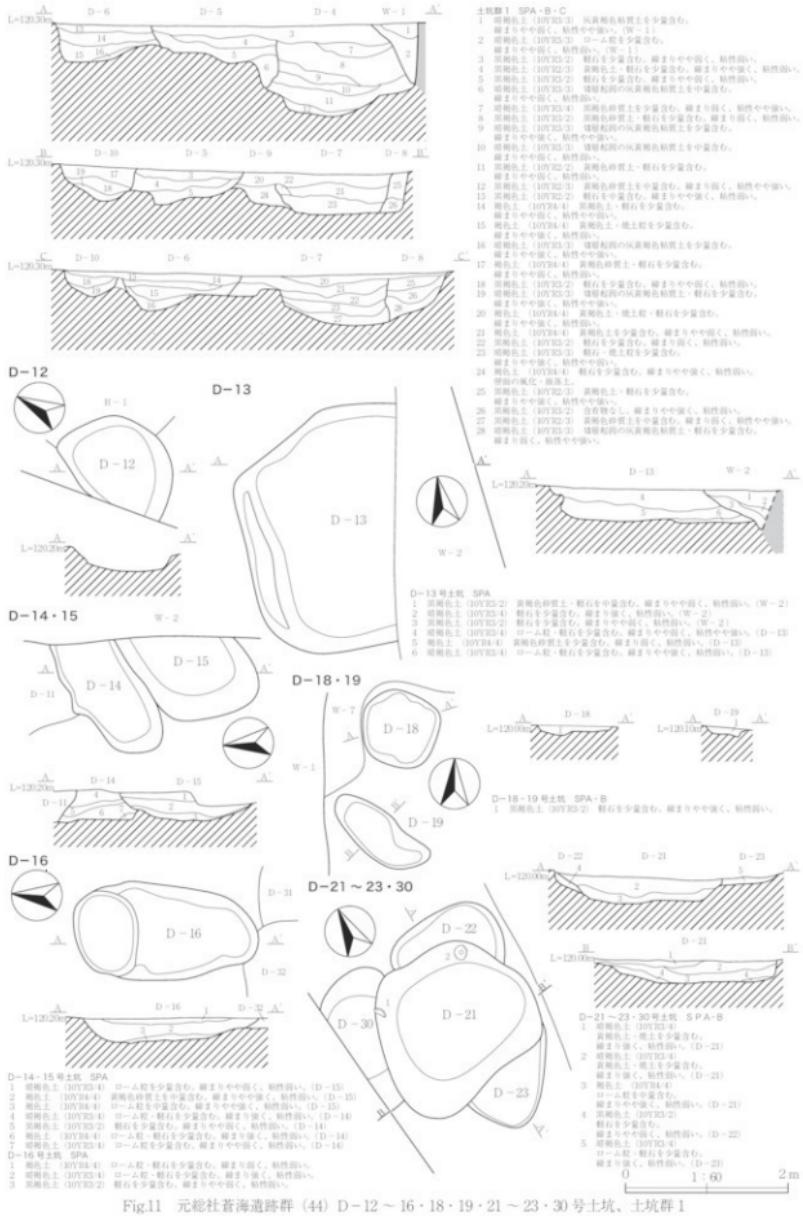
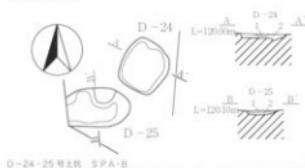
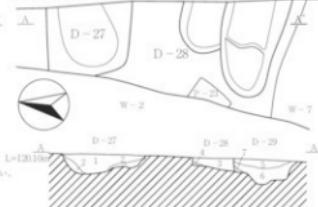


Fig.11 元総社蒼海遺跡群 (44) D-12 ~ 16, 18, 19, 21 ~ 23, 30 号土坑、土坑群 1

D-24・25



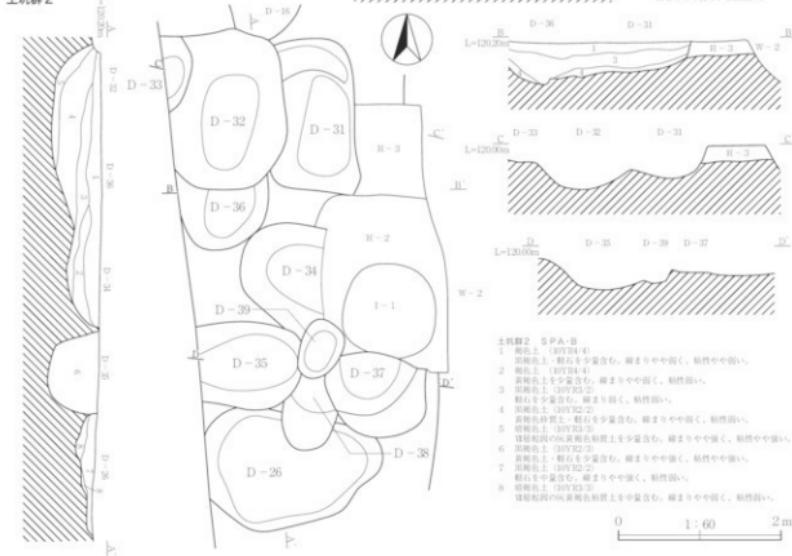
D-27～29



D-27～29 号土坑 SPA

1. 黄褐色土 (D-YK34-2) 砂石を少含む。稍まりやや固く、粘性弱い。
2. 黄褐色土 (D-YK34-4) 砂石を少含む。稍まりやや固く、粘性弱い。
3. 黄褐色土 (D-YK34-4) 砂石・粗粒砂利を少含む。稍まりやや固く、粘性弱い。
4. 黄褐色土 (D-YK34-4) 砂石を少含む。稍まりやや固く、粘性弱い。
5. 黄褐色土 (D-YK34-2) 砂石を少含む。
6. 黄褐色土 (D-YK34-4) 砂石を少含む。稍まりやや固く、粘性弱い。
7. 黄褐色土 (D-YK34-4) 砂石を少含む。稍まりやや固く、粘性弱い。

土坑群2



0 1:60 2m

P-1



P-2



P-3



P-4



P-5



P-6・7



P-8



P-9



P-10



P-11



P-12



P-13



P-14



P-15



P-16・17



P-18・19



P-20・21



0 1:60 2m

Fig.12 元総社蒼海遺跡群(44) D-24・25・27～29号土坑、土坑群2、ピット

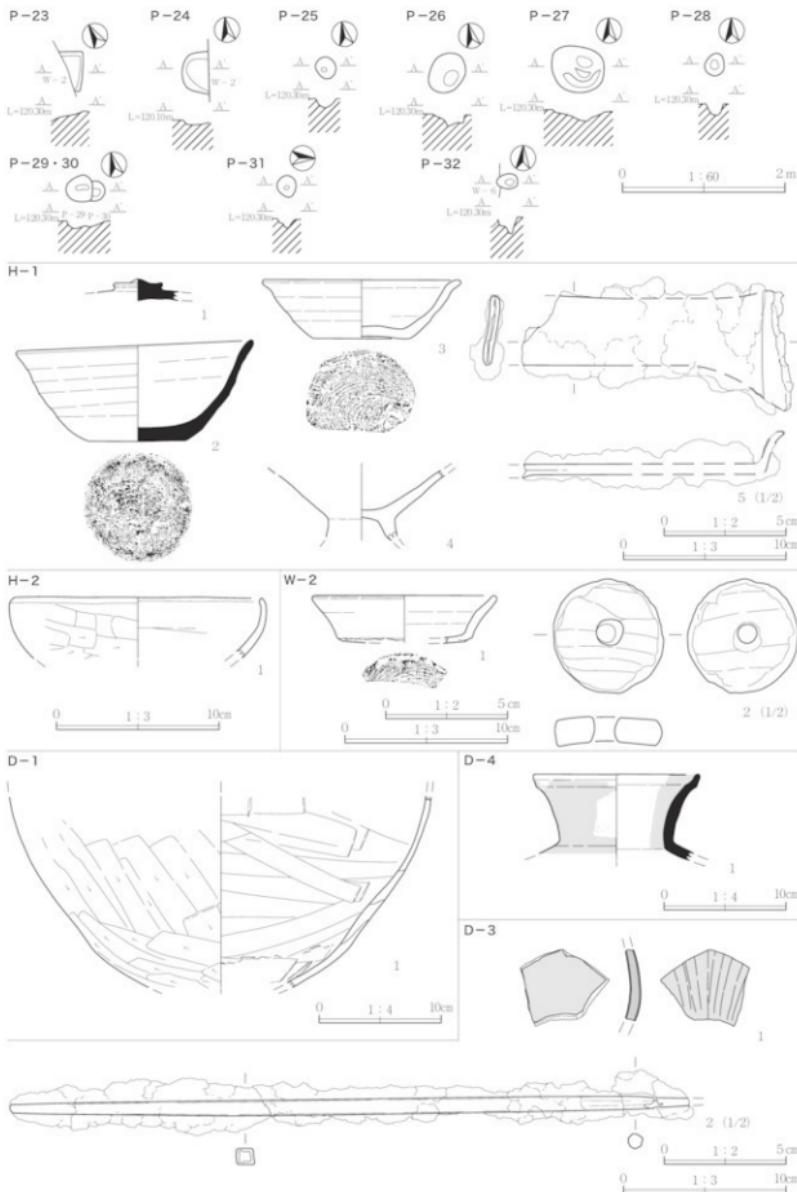


Fig.13 元總社蒼海遺跡群(44) ピット、出土遺物

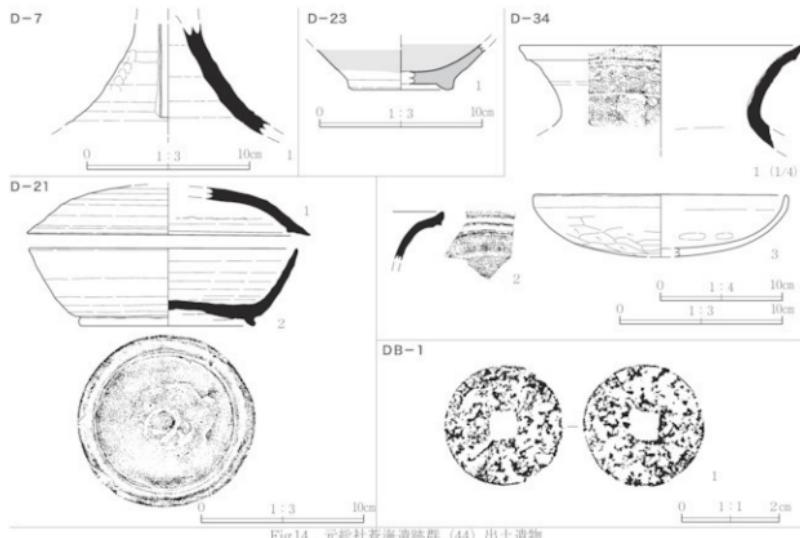


Fig.14 元總社蒼海遺跡群(44)出土遺物

Table 2 元總社蒼海遺跡群(44)出土遺物観察表  
H-1

No.	出土位置	種別	形状	口径	底径	高さ	地土	構成	色調	形態、成・整形、文様等の特徴	推存状況・備考	
1	覆瓦	板瓦	板	—	—	12.0	(1) 黒色地、白 (2) 黄色地、白	板面 裏面	黒色 黄色	内部にリブ有り、大きめの板で、マツダガラス有り、内側にリブ 有り。	積み重ね、積み重ね(29cm)。	
2	覆瓦	板瓦	板	33.1	6.0	6.1	(1) 黑色地、白 (2) 黄色地、白	板面 裏面	黒色 黄色	内部に横溝有り(2mm)、縦溝リブ(1mm)有り、底面の側面有り(2mm)、内側に 縦溝リブ(2mm)、底面に一走りリブ(2mm)有り。	浮き瓦。	
3	板	板瓦	板	32.0	6.0	3.6	(1) 黑・茶色地、白 (2) 黄色地、白	板面 裏面	黒色 黄色	内部に横溝有り(2mm)、縦溝リブ(1mm)有り、底面の側面有り(2mm)、内側に 縦溝リブ(2mm)、底面に一走りリブ(2mm)有り。	1.3m 売却。	
4	瓦割瓦	上側瓦	板	—	—	14.0	(1) 黑・茶色地、 白地	板面 裏面	黒色 白色	内部に横溝有り(2mm)、縦溝リブ(1mm)有り。	瓦割一瓦割。	
No.	出土位置	種別	形状	高さ	幅	厚さ	地土	構成	色調	重量	形態、成・整形、文様等の特徴	推存状況・備考
	元總社蒼海遺跡群(44)										未記載	

H-2

No.	出土位置	種別	形状	口径	底径	高さ	地土	構成	色調	形態、成・整形、文様等の特徴	推存状況・備考
1	覆瓦	玉筋瓦	筒	35.0	—	—	(1) 黑色地、黄 (2) 黄色地、白	玉筋	黑色 黄色	内部に横溝有り(2mm)、底面リブ(1mm)有り、底面の側面有り(2mm)、内側に 縦溝リブ(2mm)、底面に一走りリブ(2mm)有り。	1.8m 売却。

W-2

No.	出土位置	種別	形状	口径	底径	高さ	地土	構成	色調	形態、成・整形、文様等の特徴	推存状況・備考
1	覆瓦	かわら瓦	筒	31.0	9.0	—	(1) 黑色地、白 (2) 黄色地、白	玉筋	黑色 黄色	内部に横溝有り(2mm)、底面リブ(1mm)有り、底面の側面有り(2mm)、内側に 縦溝リブ(2mm)、底面に一走りリブ(2mm)有り。	1.8m 売却。
No.	出土位置	種別	形状	底径	厚さ	地土	構成	色調	重量	形態、成・整形、文様等の特徴	推存状況・備考
2	覆瓦	玉筋瓦	筒	37	13	1.2	(1) 黑色地、白 (2) 黄色地、白	玉筋	黑色 黄色	内部に横溝有り(2mm)、底面リブ(1mm)有り、底面の側面有り(2mm)、内側に 縦溝リブ(2mm)、底面に一走りリブ(2mm)有り。	1.8m 売却。

D-1

No.	出土位置	種別	形状	口径	底径	高さ	地土	構成	色調	形態、成・整形、文様等の特徴	推存状況・備考
1	覆瓦	玉筋瓦	筒	—	—	15.0	(1) 黑・茶色地、 白地	玉筋	黑色 白色	内部に横溝有り(2mm)、底面リブ(1mm)有り、底面の側面有り(2mm)、内側に 縦溝リブ(2mm)、底面に一走りリブ(2mm)有り。	積み重ね。

D-3

No.	出土位置	種別	形状	口径	底径	高さ	地土	構成	色調	形態、成・整形、文様等の特徴	推存状況・備考
1	覆瓦	玉筋瓦	筒	—	—	14.0	粘土、黑色地、 白地	玉筋	黑色 白色	内部に横溝有り(2mm)、底面リブ(1mm)有り、底面の側面有り(2mm)、内側に 縦溝リブ(2mm)、底面に一走りリブ(2mm)有り。	積み重ね。
No.	出土位置	種別	形状	高さ	幅	厚さ	地土	構成	重量	形態、成・整形、文様等の特徴	推存状況・備考
2	瓦割瓦	瓦割品	筒	32.0	6.0	6.0	—	—	—	未記載	積み重ね(2.5m)。

D-4

No.	出土位置	種別	形状	口径	底径	高さ	地土	構成	色調	形態、成・整形、文様等の特徴	推存状況・備考
1	覆瓦	玉筋瓦	筒	33.0	—	7.0	(1) 黑・茶色地、 白地	玉筋	黑色	内部に横溝有り(2mm)、口側は内側に引っ張りした1cm程の横溝が開く。自然剥離。 内側にリブ(2mm)有り。	1.8m 売却。

D-7

No.	出土位置	種別	形状	口径	底径	高さ	地土	構成	色調	形態、成・整形、文様等の特徴	推存状況・備考
1	覆瓦	玉筋瓦	筒	—	—	6.0	(1) 黑・茶色地、 白地	玉筋	黑色	内部に横溝有り(2mm)、底面は内側に引っ張りした1cm程の横溝が開く。自然剥離。 内側にリブ(2mm)有り。	積み重ね(1.8m)。

## D-21

No	出土位置	種別、形様	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	形状、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考
1	竪上	灰陶 壺	(173)	-	(28)	口 黑丸形、チャート軸付	堅焼	黒灰色	内側口縁一帯ロココラ風彫刻、外側はロココ風彫刻底輪内側チャート	保存1ヶ月。
2	高台(1)	灰陶壺	16.1	10.7	13.8	口 黑丸形。	堅焼	灰白色	内側口縁ロココラ風彫刻、底部ロココ風彫刻下部斜面ハナナフ。底部内側、底部内側底輪内側チャート。	2.3ヶ月。

## D-23

No	出土位置	種別、形様	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	形状、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考
1	竪上	白陶 壺	-	(36)	(28)	口 黑丸形	堅焼	灰白色	内側口縁ロココラ風彫刻、底部ロココラ風彫刻下部斜面ハナナフ。底部内側、底部内側底輪内側チャート。	保存1ヶ月。

## D-34

No	出土位置	種別、形様	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	形状、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考
1	竪上	白陶 壺	-	(36)	(28)	口 黑丸形	堅焼	灰白色	内側口縁ロココラ風彫刻、底部ロココラ風彫刻下部斜面ハナナフ。底部内側、底部内側底輪内側チャート。	保存1ヶ月。
2	高台(4)	灰陶壺	-	-	-	口 黑丸形。	堅焼	灰白色	内側口縁ロココラ風彫刻、底部ロココラ風彫刻下部斜面ハナナフ。底部内側、底部内側底輪内側チャート。	1ヶ月。
3	窓下	白陶壺	(15.5)	-	(36)	口 黑丸形、口	堅焼	灰白色	内側口縁ロココラ風彫刻、底部ロココラ風彫刻下部斜面ハナナフ。底部内側、底部内側底輪内側チャート。	1ヶ月。

## DB-1

No	出土位置	種別、形様	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	形状、成・整形、文様等の特徴	保存状況、備考
1	壁面(1)	平壠	-	-	-	-	-	-	-	空洞、無底穿孔。

## 2 元紳社蒼海遺跡群 (45)

## (1) 竪穴住居跡

## H-1号住居跡 (Fig.15・21, PL 3)

位置 X 224、Y 213・214 主軸方向 N - 88° - E 規模 東西軸 4.24 m、南北軸 3.69 m、現壁高 0.08 m。東壁を搅乱により削平される。面積 (11.33) m<sup>2</sup> 床面 ほぼ平坦な地山硬化床。竪周辺から住居中央部にかけて、やや硬化を認められる。竪 南東壁に位置する。確認長 0.61 m、燃焼部幅 0.27 m を測る。貯蔵穴 北東隅に位置する。東西 0.49 m、南北 0.51 m、深さ 0.31 m を測り、ほぼ円形を呈する。重複 D-5・7 と重複し、新旧関係は本遺構→D-5・7である。出土遺物 土師器壺(1、2)、高台壺(3、4)、高台皿(5、6)、土師器甕(7)の7点を図示。時期 出土遺物の傾向から10世紀後半と想定される。

## H-2号住居跡 (Fig.16・21, PL 3)

位置 X 225・226、Y 208・209 主軸方向 N - 60° - E 規模 東西軸 4.97 m、南北軸 (3.55) m、現壁高 0.15 m。住居東半は調査区外になる。面積 (9.41) m<sup>2</sup> 床面 ほぼ平坦な地山硬化床。重複 D-14・15・16・20・21と重複し、新旧関係はD-20・21→本遺構→D-14・15・16である。D-20・21は別遺構として扱っているが、本遺構に伴う床下土坑の可能性も考えられる。出土遺物 土師器壺(1~5)、土師器甕(6)、こも編石(7)の7点を図示。時期 出土遺物の傾向から6世紀後半~7世紀前半と想定される。

## (2)溝

## W-1号溝 (Fig.16・21, PL 3)

位置 X 220 ~ 227、Y 211 ~ 213 主軸方向 N - 87° - E 規模 長さ 31.84 m、上幅 5.84 m、下幅 1.88 m、深さ 2.61 m。形状等 西から東へ走行し、断面はU字状を呈する。重複 W-2・3・6・8・10、地下式坑、I-3と重複し、新旧関係はW-2・3・6・8→本遺構→W-10、I-3である。出土遺物 覆土中より須恵器、土師器、かわらけ、陶磁器類、石製品が出土している。かわらけ(1)、石臼(2)、くぼみ石(3)を図示。時期 規模・形状等から蒼海城に関連する堀の可能性が考えられ、15世紀代と想定される。備考 元紳社蒼海遺跡群(29)1区において確認されていたW-1号溝に続く遺構である。

## W-2号溝 (Fig.17・21)

位置 X 226・227、Y 213・214 主軸方向 N - 32° - E 規模 長さ 3.96 m、上幅 1.47 m、下幅 1.24 m、深さ 0.47 m。形状等 南西から北東に走行し、断面は緩やかなU字状を呈する。重複 W-1・3と重複し、新旧関係はW-3→本遺構→W-1である。出土遺物 須恵器、土師器等が出土しており、須恵器高杯(1)、土師器甕(2)、火鉢(3)を図示。時期 出土遺物および重複関係から15世紀代と想定される。

#### **W-3号溝 (Fig.17)**

位置 X 226 ~ 228、Y 213 ~ 214 主軸方向 N - 80° - E 規模 長さ 9.71 m、上幅 1.41 m、下幅 1.22 m、深さ 0.46 m。 形状等 南西から北東へ走行する。断面は台形を呈する。重複 W-1・2と重複し、新旧関係は本遺構→W-2→W-1である。出土遺物なし。時期 重複関係から15世紀代と想定される。

#### **W-4号溝 (Fig.17, PL 3)**

位置 X 221-222、Y 213 主軸方向 N - 84° - E 規模 長さ 4.73 m、上幅 1.04 m、下幅 0.65 m、深さ 0.17 m。形状等 西から東へ走行し、断面は不整形な台形を呈する。北側に段を持って張り出す箇所がある。重複 P-97~99と重複し、新旧関係はP-97~99→本遺構である。出土遺物 土師器、カワラケ、培塿が出土しているが、小破片のため図示には至らず。時期 出土遺物及び重複関係から、中・近世と想定される。

#### **W-5号溝 (Fig.17, PL 4)**

位置 X 225、Y 207 主軸方向 N - 2° - E 規模 長さ (2.56) m、上幅 0.22 m、下幅 0.08 m、深さ 0.07 m。形状等 北から南へ走行し、断面は緩やかなV字状を呈する。出土遺物なし。時期 出土遺物・重複関係もなく判然としないが、覆土の堆積状況等から中・近世と想定される。

#### **W-6号溝 (Fig.17, PL 4)**

位置 X 224-225、Y 209 ~ 211 主軸方向 N - 9° - W 規模 長さ (10.24) m、上幅 1.21 m、下幅 0.31 m、深さ 0.21 m。形状等 南西から南東へ方形に走行する。断面は箱型を呈する。重複 W-1、D-13、P-86・87と重複し、いずれの遺構よりも先行する。出土遺物 須恵器、土師器、陶磁器類、鉄製品等が出土しているが、小破片のため図示には至らず。時期 出土遺物および重複関係から中世と想定される。

#### **W-7号溝 (Fig.17, PL 4)**

位置 X 224-225、Y 211 主軸方向 N - 91° - E 規模 長さ (5.24) m、上幅 0.90 m、下幅 0.73 m、深さ 0.18 m。形状等 東から西へ走行し、調査区外へ延びる。断面は緩やかなV字形を呈する。出土遺物 須恵器、土師器が少数出土しているが、小破片のため図示には至らず。時期 覆土の堆積状況等から中・近世と想定される。

#### **W-8号溝 (Fig.17, PL 4)**

位置 X 225-226、Y 211 主軸方向 N - 70° - W 規模 長さ (1.67) m、上幅 (0.28) m、下幅 (0.08) m、深さ 0.08 m。形状等 東から西へ走行し、断面は台形を呈する。重複 W-1・6、I-3と重複し、新旧関係は本遺構→W-6→W-1→I-3である。出土遺物なし。時期 重複関係から中・近世と想定される。備考 規模・走行方向からW-9号溝と同一の遺構になる可能性も考えられる。

#### **W-9号溝 (Fig.17-22, PL 4)**

位置 X 226、Y 211 主軸方向 N - 56° - E 規模 長さ (1.31) m、上幅 0.44 m、下幅 0.35 m、深さ 0.06 m。形状等 南東から北西へ走行し、断面は台形を呈する。重複 I-3と重複し、新旧関係は本遺構→I-3である。出土遺物なし。時期 重複関係から中・近世と想定される。備考 規模・走行方向からW-8号溝と同一の遺構になる可能性も考えられる。

#### **W-10号溝 (Fig.17-22, PL 4)**

位置 X 227 ~ 232、Y 211 ~ 214 主軸方向 N - 76° - W 規模 長さ (21.54) m、上幅 (8.97) m、深さ 1.61 m。形状等 北から南東へ走行し、断面は緩やかなV字状を呈する。重複 W-1と重複し、新旧関係はW-1→本遺構である。出土遺物 須恵器、土師器、カワラケ、培塿等が出土しており、石鉢(1)を図示。時期 規模・形状等から蒼海城に関連する施設の可能性が考えられ、15世紀代と想定される。備考 W-1号溝を重機で先行掘削したため、断面のみでの記録となっている。北東隅は近現代の廃棄物により埋没しており崩落の危険が伴うため未調査であり、東側の立ち上がりは確認できていない。本調査区北東側で前橋市教育委員会が実施した、平成24年度上野国府等範囲内容確認調査においても検出されており、南北に延びる遺構である。

### (3) DB-1号土坑墓 (Fig.17・22, PL 4)

位置 X 225・226、Y 213 主軸方向 N - 7° E 規模 長軸 124 m、短軸 120 m、深さ 1.69 m。形状等 平面円形を呈する。出土遺物 覆土中より須恵器、土師器、陶磁器類、古銭（寛永通寶）、鉄製品（釘）、キセル等が出土し、古銭（1）、煙管（2、3）を図示。時期 出土遺物から近世と推定される。

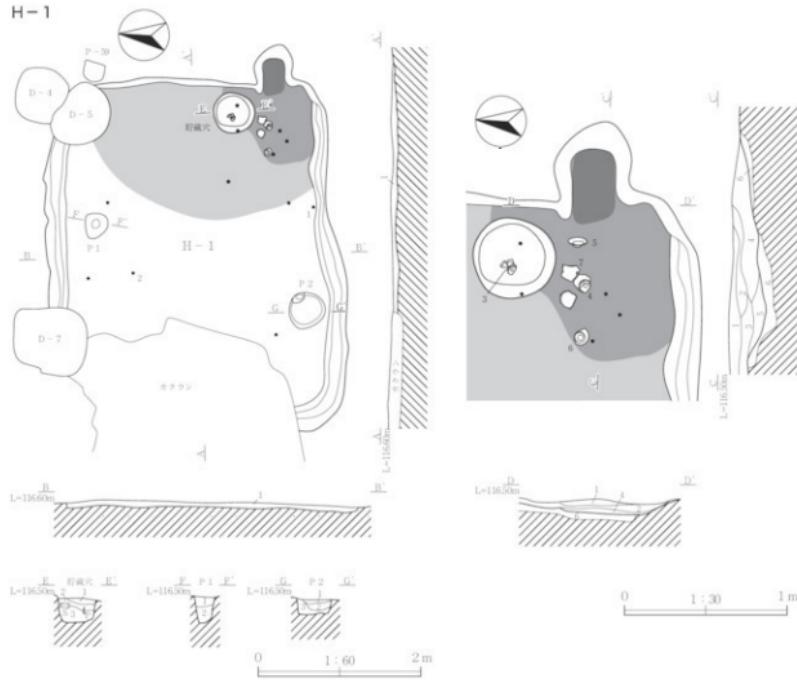
### (4) 地下式坑 (Fig.18・22, PL 4)

位置 X 221・222、Y 211 主軸方向 N - 88° E 規模 長軸 (3.01) m、短軸 (1.71) m、深さ 0.71 m。形状等 W-1号溝を重機により先行掘削したため、全般的な平面形態は不明である。重複 W-1と重複し、新旧関係は本造槽→W-1である。出土遺物 須恵器、石製品が少数出土しており、石鉢（1）1点を図示。時期 形状、重複関係から中世と考えられる。

### (5) 井戸、土坑、ピット (Fig.18～20・22・23, PL 5)

井戸、土坑、ピットについては「Tab.4 元総社蒼海遺跡群 (44)、(45) 土坑墓・井戸・土坑・ピット計測表」を参照のこと。

#### H-1



- H-1号住居跡 SPA・B  
表面は黄褐色砂質土、粗石を少量含む。縮まりやや強く、粘性やや弱い。  
H-1号住居跡埋藏 SP-C-D  
1. 黄褐色砂質土 細粒の砂質土、粗石を少量含む。縮まりやや強く、粘性やや弱い。  
2. 黄褐色砂質土 細粒の砂質土、粗石を少量含む。縮まりやや強く、粘性やや弱い。  
3. 黄褐色砂質土 細粒の砂質土、粗石を少量含む。縮まりやや強く、粘性やや弱い。  
4. 黄褐色砂質土 (HOT32-3) 細粒の砂質土、粗石を少量含む。縮まりやや強く、粘性やや弱い。  
5. 黄褐色砂質土 (HOT32-3) 細粒の砂質土、粗石を少量含む。縮まりやや強く、粘性やや弱い。(瓦片) (瓦)  
6. 黄褐色砂質土 (HOT32-3) 黄褐色砂質土、粗石を少量含む。縮まりやや強く、粘性やや弱い。(瓦片) (瓦)
- H-1号住居跡埋藏穴 SPE  
表面は少量含む。縮まりやや強く、粘性弱い。  
2. 黄褐色土 (HOT32-2) ラーム粘土を少量含む。縮まり弱く、粘性弱い。  
3. 黄褐色土 (HOT32-4) ラーム粘・粗石を少量含む。縮まり弱く、粘性弱い。  
H-1号住居跡埋藏 SP-A  
1. 黄褐色砂質土 (HOT32-3) 黄褐色砂質土、粗石を少量含む。縮まりやや強く、ラーム粘を多く含む。縮まりやや弱く、粘性やや弱い。  
2. 黄褐色土 (HOT32-4) 黄褐色砂質土、粗石を少量含む。縮まりやや弱く、粘性やや弱い。  
H-1号住居跡 P2 SPA  
1. 黄褐色砂質土 (HOT32-3) 黄褐色砂質土、粗石を少量含む。縮まりやや強く、粘性やや弱い。  
2. 黄褐色土 (HOT32-4) ラーム粘を少量含む。縮まりやや弱く、粘性弱い。  
3. 黄褐色土 (HOT32-4) ラーム粘・粗石を少量含む。縮まりやや弱く、粘性弱い。

Fig.15 元総社蒼海遺跡群 (45) H-1号住居跡

H-2, D-14 ~ 16 • 19 ~ 21

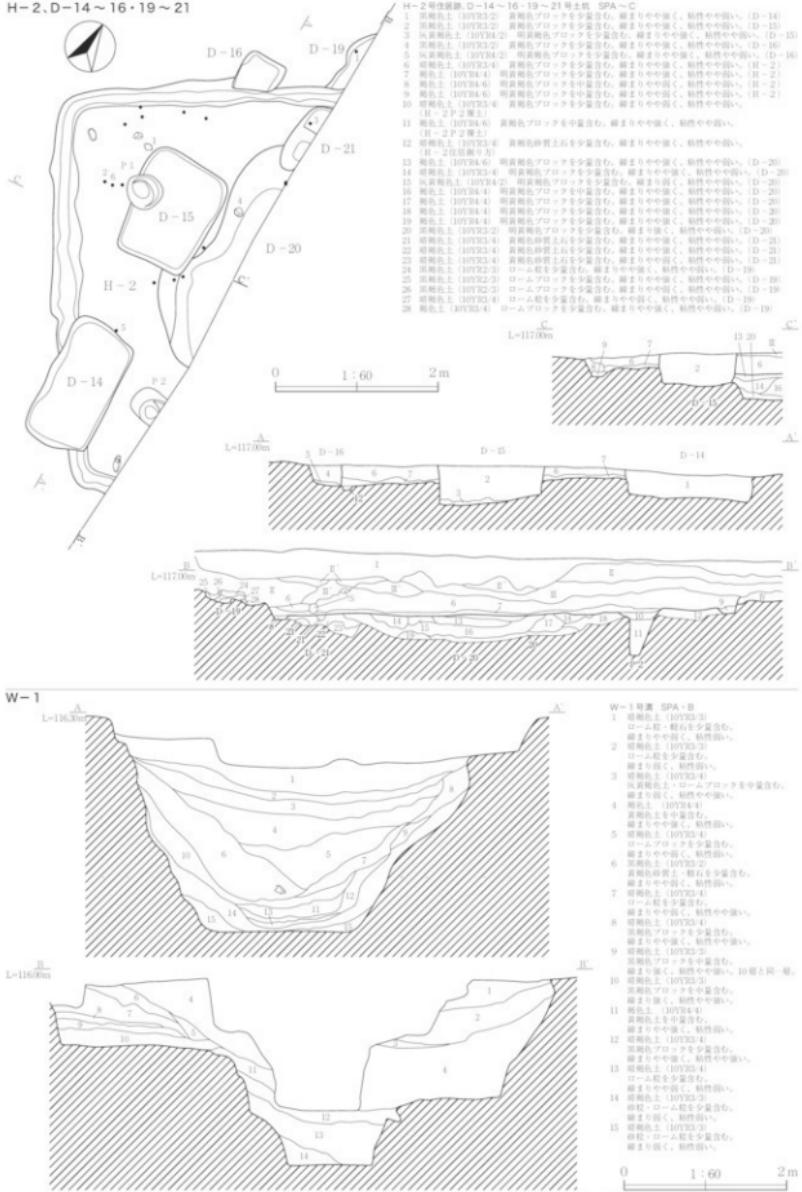
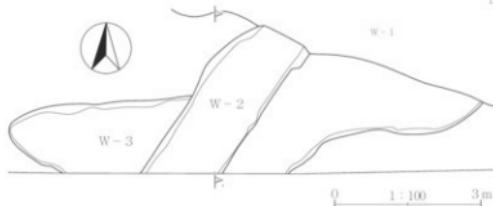


Fig.16 元祐社蒼海遺跡群(45)H-2号住居跡、W-1号溝、D-14~16・19~21号土坑

## W-2・3



## L=116.90m



- W-2・3号溝 SPA  
1 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粘を少含む。  
縦溝状や横溝状、軽微固い。

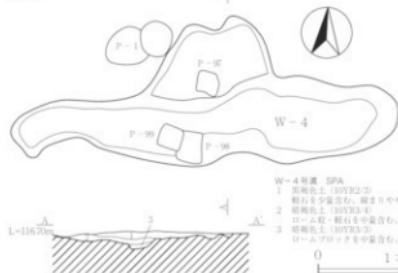
2 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粘を多量含む。  
縦溝状や横溝状、軽微固い。(W-2)

3 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粘を少含む。  
縦溝状や横溝状、軽微固い。

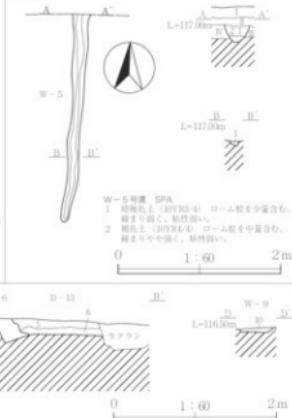
4 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粘を少含む。  
縦溝状や横溝状、軽微固い。(W-2)

5 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粘を少含む。  
縦溝状や横溝状、軽微固い。(W-2)

## W-4



## W-5



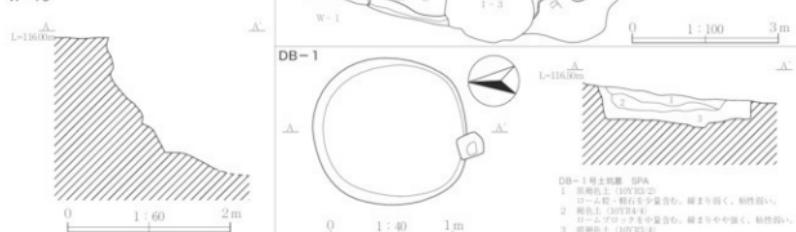
## W-6・9、D-13



## W-6～9号溝 SPA～D-13号土坑 SPA～D

- 1 黑褐色土 (10YR2/4) ローム粘を少含む。縦溝状や横溝状、粘性弱い。  
2 黑褐色土 (10YR2/4) ローム粘を多量含む。縦溝状や横溝状、粘性弱い。  
3 黑褐色土 (10YR2/4) ローム粘ブロックを少含む。縦溝状や横溝状、粘性弱い。  
4 黑褐色土 (10YR2/4) ローム粘を多量含む。縦溝状や横溝状、粘性弱い。  
5 黑褐色土 (10YR2/4) ローム粘ブロック。炭化物を少含む。  
6 黑褐色土 (10YR2/4) ローム粘を少含む。縦溝状や横溝状、粘性弱い。  
7 黑褐色土 (10YR2/4) ローム粘ブロックを少含む。縦溝状や横溝状、粘性弱い。  
8 黑褐色土 (10YR2/4) ローム粘を多量含む。縦溝状や横溝状、粘性弱い。  
9 黑褐色土 (10YR2/4) ローム粘を多量含む。縦溝状や横溝状、粘性弱い。  
10 黑褐色土 (10YR2/3) ローム粘ブロック。炭化物を少含む。

## W-10



- DB-1号土坑 SPA  
1 黑褐色土 (10YR2/4) ローム粘を少含む。縦溝状や横溝状、粘性弱い。  
2 黑褐色土 (10YR2/4) ローム粘を多量含む。縦溝状や横溝状、粘性弱い。  
3 黑褐色土 (10YR2/4) ローム粘を少含む。縦溝状や横溝状、粘性弱い。

Fig.17 元穂社蒼海遺跡群(45) W-2～10号溝、D-13号土坑、DB-1号土坑墓

地下式坑

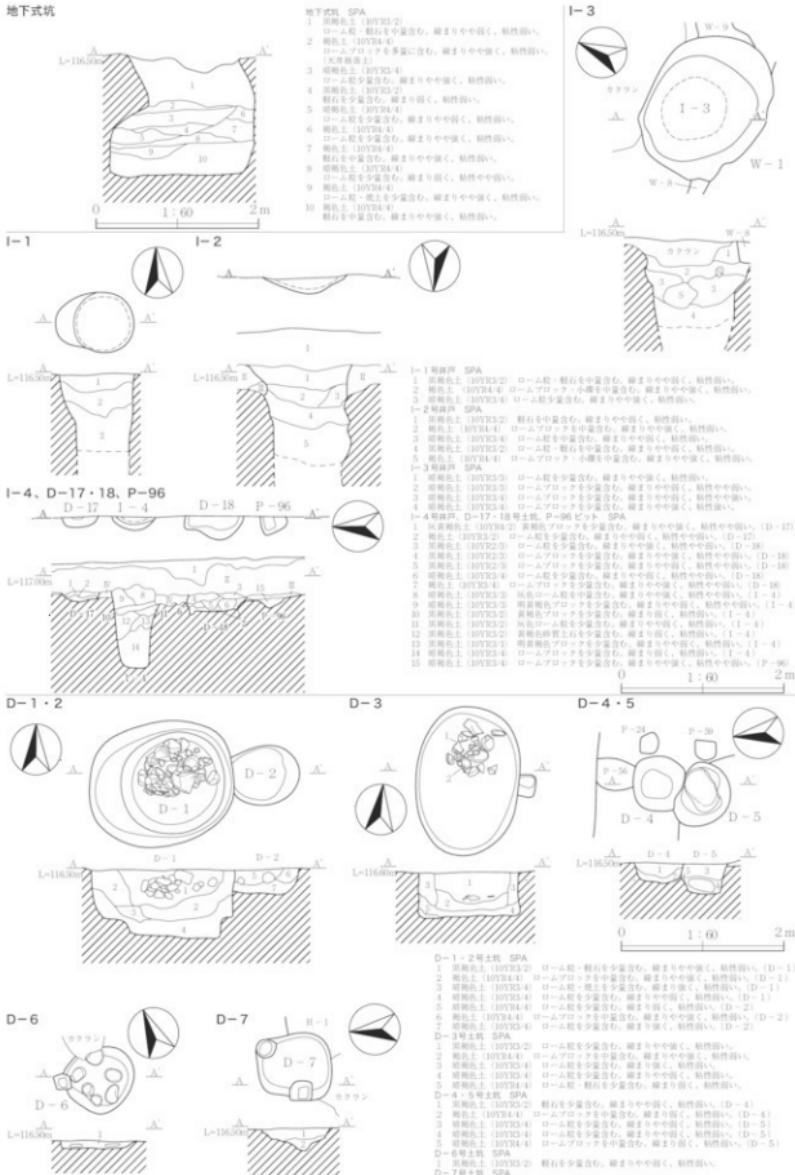
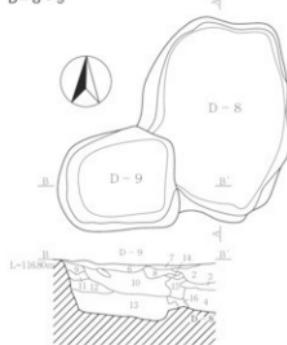


Fig.18 元総社蒼海遺跡群(45)地下式坑、I-1~4号井戸、D-1~7・17・18号土坑、P-96号ピット

D-8・9



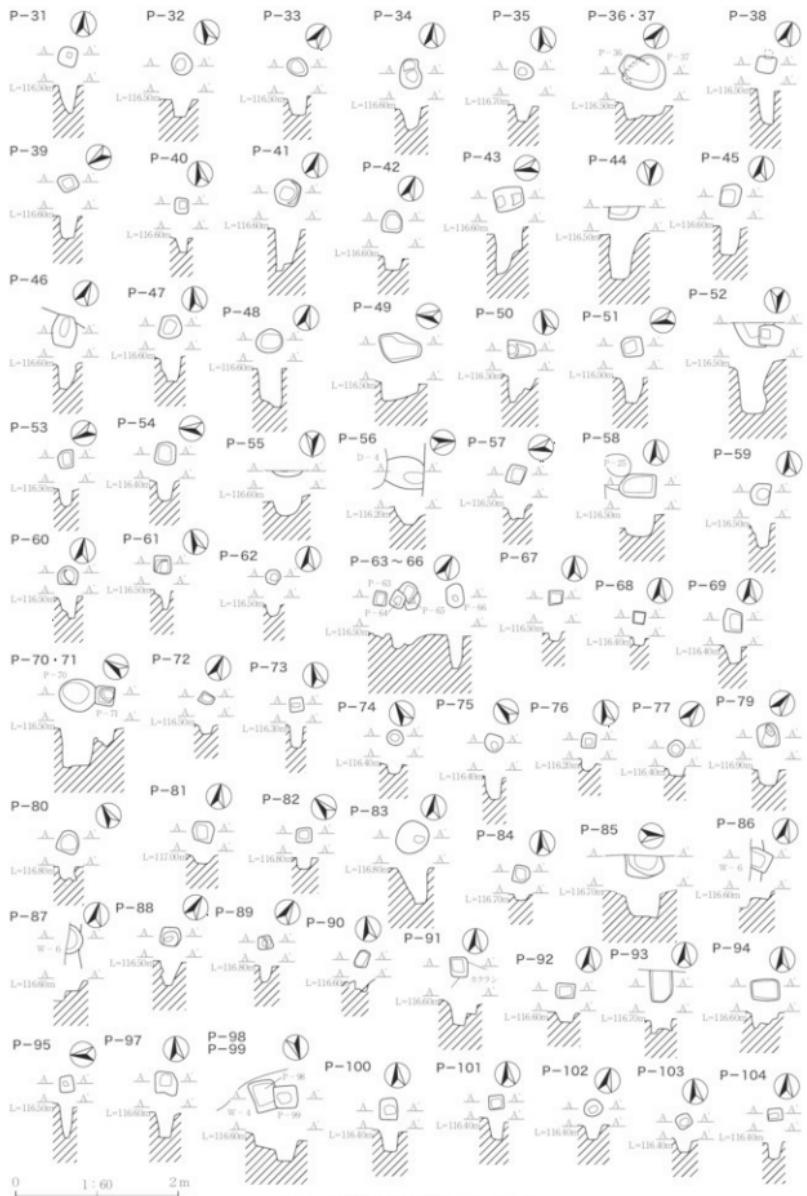


Fig.20 元絶社蒼海遺跡群 (45) ピット

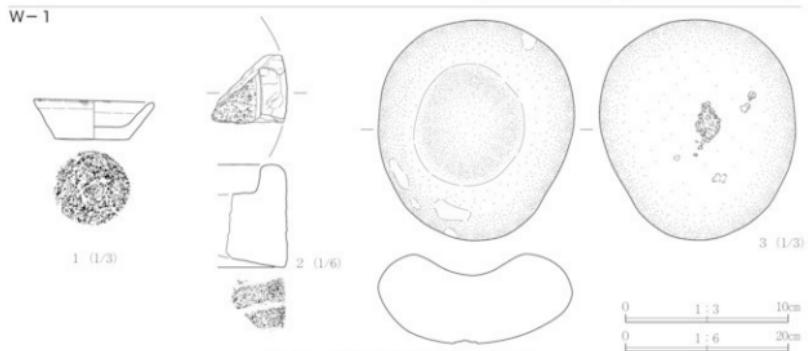
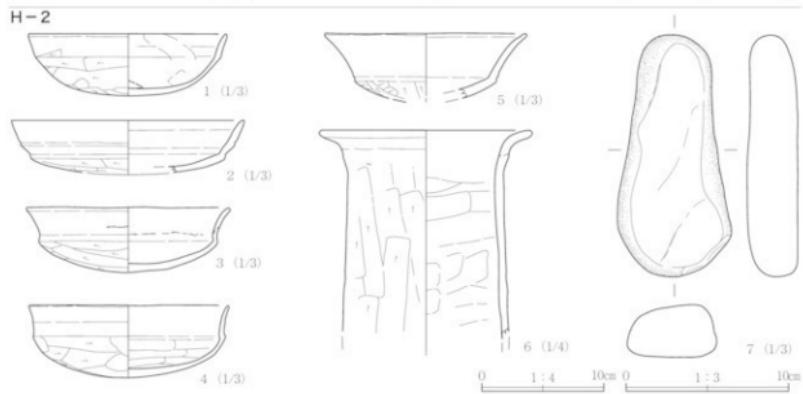
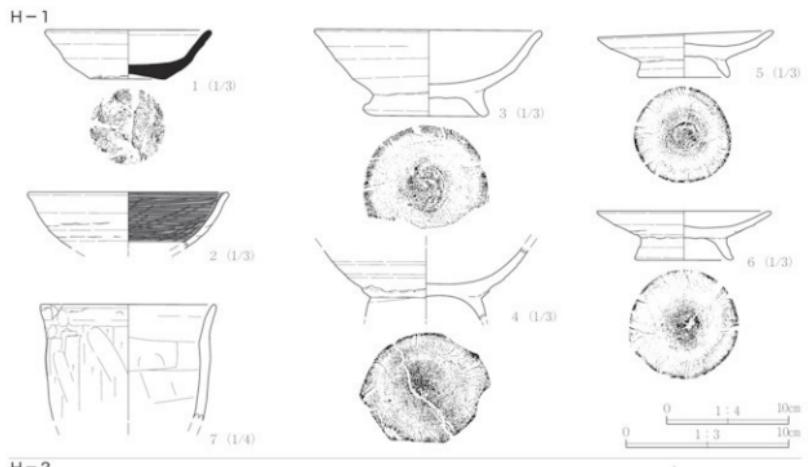


Fig.21 元總社舊海跡群(45) 出土遺物

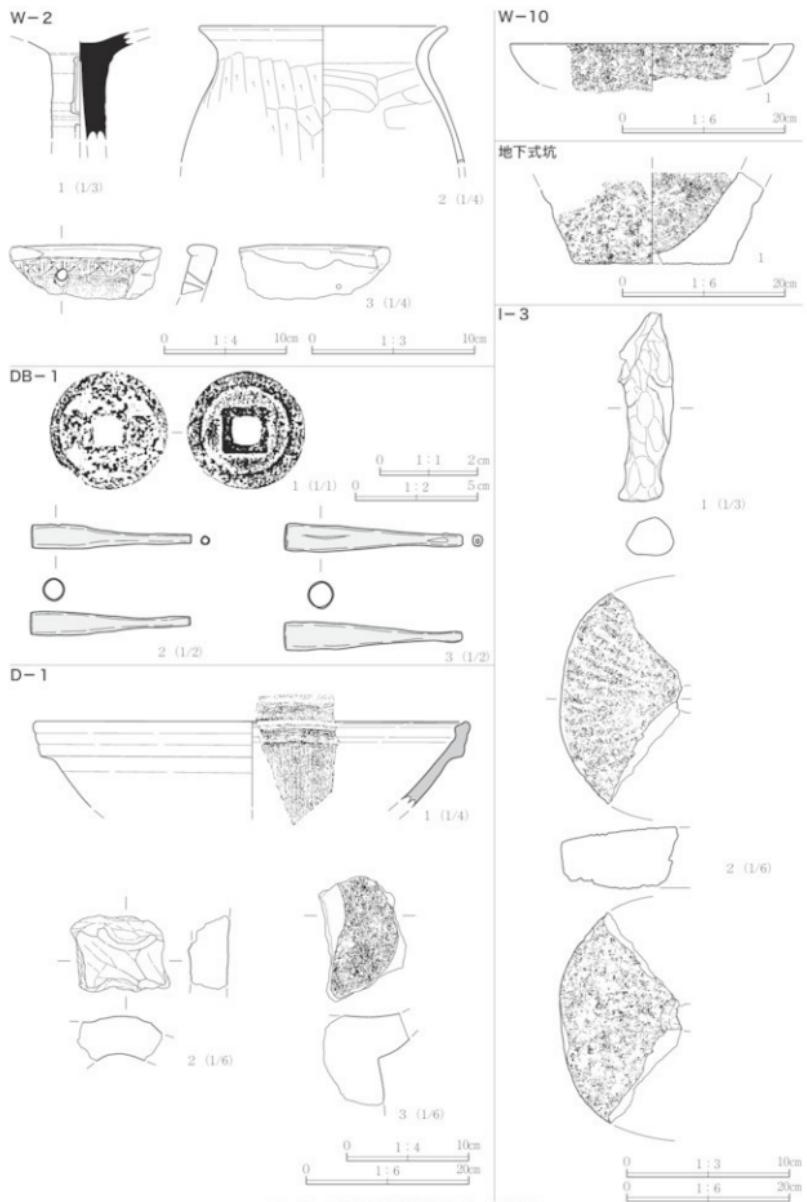


Fig.22 元祐社蒼海遺跡群(45)出土遺物

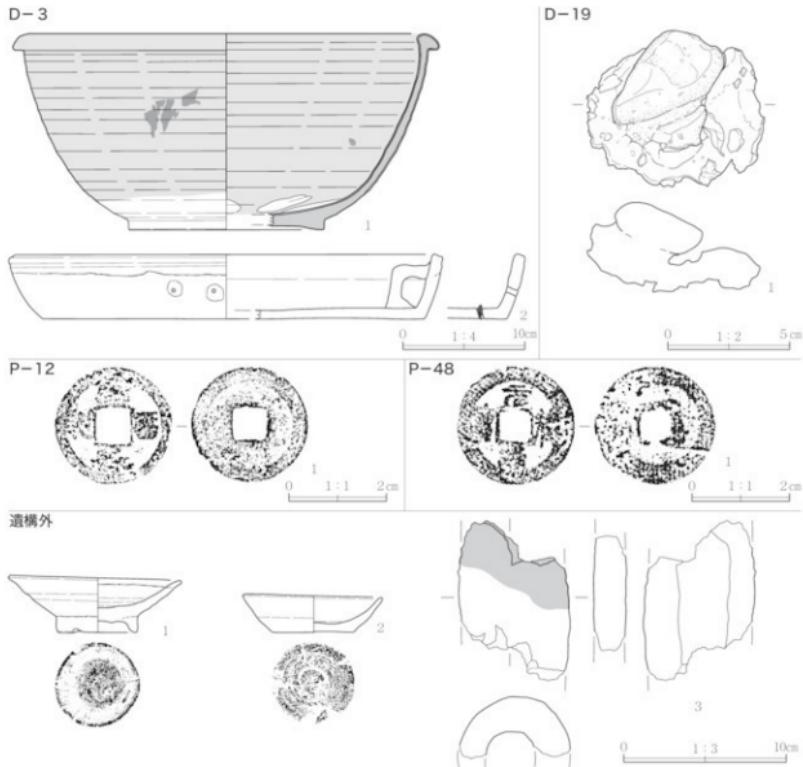


Fig.23 元龜社蒼海遺跡群(45)出土遺物

Tab. 3 元龜社蒼海遺跡群(45)出土遺物観察表

H-1

No	出土位置	種別	器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・體形、文様等の特徴	現存状況・備考
1	深海底	居住廻	井	(99)	48	38	Q・黑色粘	中火燒成	■に細い 内側口縁部コリナ、浅いリブリニア、足部凹斜面。	1-2残片。	
2	深海底	居住廻	井	(122)	—	32	Q・黑色粘	中火燒成	内側口縁部コリナ、浅いリブリニア、足部凹斜面。	1-2残片。	
3	深海底	居住廻	井	118	72	52	Q・深・茶色粘 小球	中火 燒成	内側口縁部コリナ、浅いリブリニア、足部凹斜面。	1-2残片。	
4	深海底	居住廻	井	—	—	42	Q・深・茶色粘 小球	中火 燒成	内側口縁部コリナ、浅いリブリニア、足部凹斜面。	1-2残片。	
5	深海底	居住廻	井	168	54	28	Q・白色粘	中火燒成	内側口縁部コリナ、浅いリブリニア、足部凹斜面。	1-2残片。	
6	深海底	居住廻	井	(166)	59	30	Q・深・茶色粘	中火 燒成	内側口縁部コリナ、浅いリブリニア、足部凹斜面。	1-2残片。	
7	深海底	居住廻	井	(143)	—	90	Q・深・茶色粘	中火 燒成	内側口縁部コリナ、浅いリブリニア、足部凹斜面。	1-2残片。	

H-2

No	出土位置	種別	器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・體形、文様等の特徴	現存状況・備考
1	深海底	1.085	井	(122)	—	34	Q・深・茶色粘	中火 燒成	内側口縁部コリナ、浅いリブリニア、内側口縁部コリナ、浅いリブリニア。	1-2残片。	
2	深海底	1.085	井	(143)	—	44	Q・深・茶色粘	中火 燒成	内側口縁部コリナ、浅いリブリニア、内側口縁部コリナ、浅いリブリニア。	1-2残片。	
3	深海底	1.085	井	(124)	—	40	Q・黑色粘	良好	明火燒成	内側口縁部コリナ、浅いリブリニア、内側口縁部コリナ、浅いリブリニア。	1-2残片。
4	深海底	1.085	井	(122)	—	42	Q・深・茶色粘	良好	明火燒成	内側口縁部コリナ、浅いリブリニア、内側口縁部コリナ、浅いリブリニア。	1-2残片。
5	深海底	1.085	井	(124)	—	32	Q・深・茶色粘	良好	明火燒成	内側口縁部コリナ、浅いリブリニア、内側口縁部コリナ、浅いリブリニア。	1-2残片。

No	出土位置	種別	基盤	口径	底径	高さ	断土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考		
6	実測工具 石器類	石器類	直筒	12.1	—	11.8	(1) 黒・茶色系 (2) 黄	基部 全体	褐色 内側・縁部黒カッパー、底面へベタリ。	内側・縁部黒カッパー、底面へベタリ。	LGR-100E2年既存。		
7	出土位置	種別	基盤	直筒	23.8	13.2	3.0	厚さ	石質	焼成	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考

W-1

No	出土位置	種別	基盤	口径	底径	高さ	断土	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	実測工具 石器類	石器類	直筒	10.6	—	11.8	白系	基部	褐色	20.0g	内側・縁部黒カッパー、底面へベタリ。内側・縁部黒カッパー、底面へベタリ。	LGR-100E2年既存。
2	出土位置	種別	基盤	直筒	—	—	—	—	—	—	—	—
3	直筒	石器類	直筒	7.3	4.6	2.0	(1) 黑・茶色系 (2) 黄	基部 全体	褐色 内側・縁部黒カッパー、底面へベタリ。	内側・縁部黒カッパー、底面へベタリ。	LGR-100E2年既存。	

W-2

No	出土位置	種別	基盤	口径	底径	高さ	断土	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	実測工具 石器類	石器類	直筒	—	—	4.0	(1) 黑色系 （2）黄	基部	褐色	内側・縁部黒カッパー、底面へベタリする。内側・縁部黒カッパー、底面へベタリする。	内側・縁部黒カッパー、底面へベタリする。	新規上2件既存。
2	実測工具 石器類	石器類	直筒	—	—	11.2	(1) 黑・茶色系 （2）黄	基部	褐色	内側・縁部黒カッパー、底面へベタリ。	内側・縁部黒カッパー、底面へベタリ。	新規上1件既存。
3	出土位置	種別	基盤	長さ	幅	厚さ	石質	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
4	直筒	石器類	円筒	13.3	12.0	5.0	4.0	—	—	12.0g	表面は少し尖った丸い形状を有し、底面は少し削り落とす。表面は少しあげていて底面は凹む感じで焼成済み。	底面は少しあげていて底面は凹む感じで焼成済み。

W-10

No	出土位置	種別	基盤	口径	底径	高さ	断土	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	直筒	石器類	直筒	—	—	—	—	—	—	—	—	既存

D B-1

No	出土位置	種類名	初期年代	材質	外径	厚度	厚さ	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考	
1	実測工具 石器類	石器類	新石器時代	粘土	30.0	—	—	—	内側・縁部黒カッパー、底面へベタリ。	内側・縁部黒カッパー、底面へベタリ。	
No	出土位置	種別	長さ	直径	口徑	断土	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	直筒	石器類	新石器	6.6	1.0	0.3	—	—	—	—	—
2	直筒	石器類	新石器	7.2	1.1	0.5	—	—	—	—	—

地下式土坑

No	出土位置	種別	基盤	口径	底径	高さ	断土	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	直筒	石器類	直筒	—	—	—	—	—	—	—	—	既存

I - 3

No	出土位置	種別	基盤	口径	底径	高さ	断土	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	直筒	石器類	直筒	—	—	24	(1) 黑色系 （2）黄	基部	内側・縁部黒カッパー、底面へベタリ。	内側・縁部黒カッパー、底面へベタリ。	新規既存。	
No	出土位置	種別	直筒	直筒	—	—	—	—	—	—	—	既存
2	直筒	石器類	直筒	—	—	—	—	—	—	—	—	既存

D - 1

No	出土位置	種別	基盤	口径	底径	高さ	断土	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	直筒	石器類	直筒	—	—	7.0	(1) 黒・チャート類 （2）白	基部	内側・縁部黒カッパー、底面へベタリ。	内側・縁部黒カッパー、底面へベタリ。	新規既存。	
No	出土位置	種別	直筒	直筒	—	—	—	—	—	—	—	既存
2	直筒	石器類	直筒	—	—	—	—	—	—	—	—	既存既存。
No	出土位置	種別	直筒	直筒	—	—	—	—	—	—	—	既存既存。
3	直筒	石器類	直筒	—	—	—	—	—	—	—	—	既存既存。

D - 3

No	出土位置	種別	基盤	口径	底径	高さ	断土	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	実測工具 石器類	石器類	直筒	—	—	16.0	16.0	直筒	内側・縁部黒カッパー、底面へベタリ。	内側・縁部黒カッパー、底面へベタリ。	新規既存。	
2	実測工具 石器類	石器類	直筒	—	—	16.0	16.0	直筒	内側・縁部黒カッパー、底面へベタリ。	内側・縁部黒カッパー、底面へベタリ。	新規既存。	

D - 19

No	出土位置	種別	基盤	長さ	幅	厚さ	断土	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	直筒	石器類	直筒	8.4	2.3	3.7	—	—	—	100.0	表面は少しあげていて底面は少し削り落とす。	既存。

ピット

No	出土位置	種類名	初期年代	材質	外径	厚度	厚さ	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	P-12	二段井	—	粘土	30.0	—	—	—	内側・縁部黒カッパー、底面へベタリ。	新規既存。
2	P-13	二段井	—	粘土	30.0	—	—	—	内側・縁部黒カッパー、底面へベタリ。	新規既存。

遺構外

No	出土位置	種別	基盤	口径	底径	高さ	断土	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	直筒	石器類	直筒	30.3	4.2	3.5	(1) 黒・白・茶色系 （2）黄	基部	内側・縁部黒カッパー、底面へベタリ。	内側・縁部黒カッパー、底面へベタリ。	3.4既存。	
2	直筒	石器類	直筒	30.3	5.0	2.3	(1) 黑・茶色系 （2）黄	基部	内側・縁部黒カッパー、底面へベタリ。	内側・縁部黒カッパー、底面へベタリ。	3.4既存。	
No	出土位置	種別	直筒	直筒	—	—	—	—	—	—	—	既存既存。

Tab. 4 元総社蒼海遺跡群(44)、(45)土坑墓・井戸・土坑・ピット計測表  
元総社蒼海遺跡群(44)

九九归一，百尺竿头更进一步											
进阶名	位置	长轴	短轴	深点	平面形状	进阶名	位置	长轴	短轴	深点	平面形状
D-1	SM3_120	0.02	0.02	0.01	(内角)	D-25	SM3_120	0.03	0.02	0.01	外角
D-2	SM3_120	1.15	1.15	1.15	圆	D-26	SM3_120	0.04	0.02	0.01	(直角)
D-3	SM3_120	0.03	0.02	0.01	直角	D-27	SM3_120	0.06	0.02	0.01	直角
D-4	SM3_120	0.06	0.03	0.01	直角	D-28	SM3_120	0.08	0.03	0.01	直角
D-5	SM3_120	2.35	1.44	1.15	直角	D-29	SM3_120	0.10	0.05	0.01	(直角)
D-6	SM3_120	0.12	0.12	0.06	直角	D-30	SM3_120	0.01	0.01	0.01	(内角)
D-7	SM3_120	1.44	1.27	0.49	直角	D-31	SM3_120	0.09	0.01	0.01	直角
D-8	SM3_120	2.24	1.57	0.52	直角	D-32	SM3_120	0.09	0.01	0.01	直角
D-9	SM3_120	0.06	0.10	0.06	直角	D-33	SM3_120	0.06	0.01	0.01	直角
D-10	SM3_120	1.14	0.75	0.46	直角	D-34	SM3_120	0.06	0.02	0.01	直角
D-11	SM3_120	1.39	1.02	0.45	直角	D-35	SM3_120	0.12	0.08	0.01	直角
D-12	SM3_120	1.14	1.13	0.30	直角	D-36	SM3_120	0.06	0.06	0.01	直角
D-13	SM3_120	0.09	0.20	0.05	直角	D-37	SM3_120	0.09	0.01	0.01	直角
D-14	SM3_120	0.79	0.66	0.42	直角	D-38	SM3_120	0.09	0.01	0.01	直角
D-15	SM3_120	1.00	1.02	0.36	直角	D-39	SM3_120	0.01	0.01	0.01	直角
D-16	SM3_120	1.04	2.08	0.62	直角	F-1	SM3_120	0.05	0.05	0.01	直角
F-1	SM3_120	1.24	1.24	1.08	直角	F-2	SM3_120	0.06	0.05	0.01	直角
F-3	SM3_120	0.09	0.09	0.01	直角	F-4	SM3_120	0.08	0.08	0.01	直角
F-5	SM3_120	1.34	0.97	0.21	直角	F-6	SM3_120	0.09	0.12	0.01	直角
F-7	SM3_120	0.11	0.01	0.01	直角	F-8	SM3_120	0.05	0.01	0.01	直角
F-9	SM3_120	2.01	1.96	0.36	直角	F-10	SM3_120	0.06	0.01	0.01	直角
F-11	SM3_120	1.65	0.94	0.49	直角	F-12	SM3_120	0.06	0.01	0.01	直角
F-13	SM3_120	1.06	1.06	0.01	直角	F-14	SM3_120	0.06	0.01	0.01	直角
F-15	SM3_120	1.06	1.06	0.01	直角	F-16	SM3_120	0.01	0.01	0.01	直角
F-17	SM3_120	0.06	0.01	0.01	直角	F-18	SM3_120	0.01	0.01	0.01	直角
F-19	SM3_120	0.06	0.01	0.01	直角	F-20	SM3_120	0.01	0.01	0.01	直角
F-21	SM3_120	0.06	0.01	0.01	直角	F-22	SM3_120	0.06	0.01	0.01	直角
F-23	SM3_120	0.06	0.01	0.01	直角	F-24	SM3_120	0.06	0.01	0.01	直角
F-25	SM3_120	0.06	0.01	0.01	直角	F-26	SM3_120	0.01	0.01	0.01	直角
F-27	SM3_120	0.06	0.01	0.01	直角	F-28	SM3_120	0.01	0.01	0.01	直角
F-29	SM3_120	0.06	0.01	0.01	直角	F-30	SM3_120	0.01	0.01	0.01	直角
F-31	SM3_120	0.06	0.01	0.01	直角	F-32	SM3_120	0.06	0.01	0.01	直角

元紀社蒼海遺跡群 (45)

## VI まとめ

今回の元総社蒼海遺跡群（44）、（45）の2次にわたる発掘調査において、堅穴住居跡5軒、溝17条（うち堀跡4条）、土坑墓2基、地下式坑1基、井戸5基、土坑・ピットを検出した。

ここでは調査ごとに成果を概観し、まとめとしたい。

### 1 元総社蒼海遺跡群（44）

堅穴住居跡3軒、溝7条、土坑墓1基、井戸1基、土坑・ピットを確認している。

堅穴住居跡はH-1号住居跡が出土遺物から9世紀後半から10世紀前半に位置づけられるものである。H-2・3号住居跡に関しては出土遺物が少ないため判然としないが、周囲の遺構との重複関係からH-2号住居跡が8世紀以降、H-3号住居跡が8世紀代に帰属するものと思われる。しかしながら、特にH-3号住居跡に関しては若干の平坦面と住居壁と思われる立ち上がりで住居跡と想定しているが、位置や残存状況等から後述する土坑群の一部になる可能性も十分に考えられる。

7条検出した溝については重複関係・出土遺物の傾向・覆土等から、W-1・2・4号溝が中世に、その他は近世に帰属するものである。特にW-1・2号溝は幅2.5m以上、深さ2m前後の断面V字状の薬研堀となる。その規模や形状から本調査区の南西に本丸の位置する蒼海城の堀跡の一部と考えられ、本調査区周辺の小見内X遺跡や元総社蒼海遺跡群（35）1区でも同様の遺構が検出されている。また、W-1号溝は調査区北東側でL字に南北方向へ折れるが、東西方向の溝を西へ延長すると小見内X遺跡で検出されている東西方向の溝に繋がるものと推察される。なお、W-1・2号溝が同一遺構かどうかは、調査区東側へ切れており判然としないため、今回の発掘調査では別遺構として扱っている。

次に、本調査では39基の土坑を確認している。これらの土坑については、V章でも述べたように調査区の北側と中央付近の2箇所での集中的な分布を看取できる（土坑群1・2）。この2箇所の土坑群は断面観察から、いずれの土坑も基本土層Ⅶおよび埋層の灰黄褐色粘質土まで掘り込んでいることが分かっており、この粘質土を目的とした粘土探掘坑である可能性が指摘される。平面形態や大きさは不均一なものであり、土坑同士の重複関係が不明瞭なものが多く見られ、短時間での乱雑的な掘削が想起されるものである。これらの土坑群と同様な遺構が元総社小見内X遺跡等の周辺遺跡でも確認されていることからも、本遺跡の土坑群が粘土探掘坑である蓋然性は高いものと思われる。また、単独で分布する土坑の中にも灰黄褐色粘質土まで掘り込んでいるものも存在しており、これらに關しても粘土探掘坑になる遺構も含んでいると思われる。今回の調査で検出した土坑群の時期は、出土遺物の傾向や重複関係等から8世紀前半頃に帰属するものと考えられる。

### 2 元総社蒼海遺跡群（45）

元総社蒼海遺跡群（45）では堅穴住居跡2軒、溝10条、土坑墓1基、地下式坑1基、井戸4基、土坑・ピットを検出した。

堅穴住居跡は2軒検出しているが、H-1号住居跡は上部および住居西側を後世の搅乱・削平により、H-2号住居跡は東半を調査区外で欠いているため、いずれも全容が明らかな住居跡ではない。各住居跡の時期については、出土遺物の傾向からH-1号住居跡が10世紀後半に帰属すると思われる。H-2号住居跡は「模倣坏」である土師器坏および長胴甕等の出土遺物から6世紀後半～7世紀前半の時期（古墳時代後期）に帰属するものと考えられる。また、本調査区の周辺では前橋市教育委員会による平成24年度上野国府等範囲内容確認調査においても住居群が確認されており、当時の集落域の展開が示唆される。

なお、H-2号住居跡の掘り方調査時に土坑を2基（D-20・21）、住居の床面下にて確認している。今回の調査では土坑としての遺構番号を付しているが、H-2号住居跡に伴う床下土坑になる可能性が高いものである。

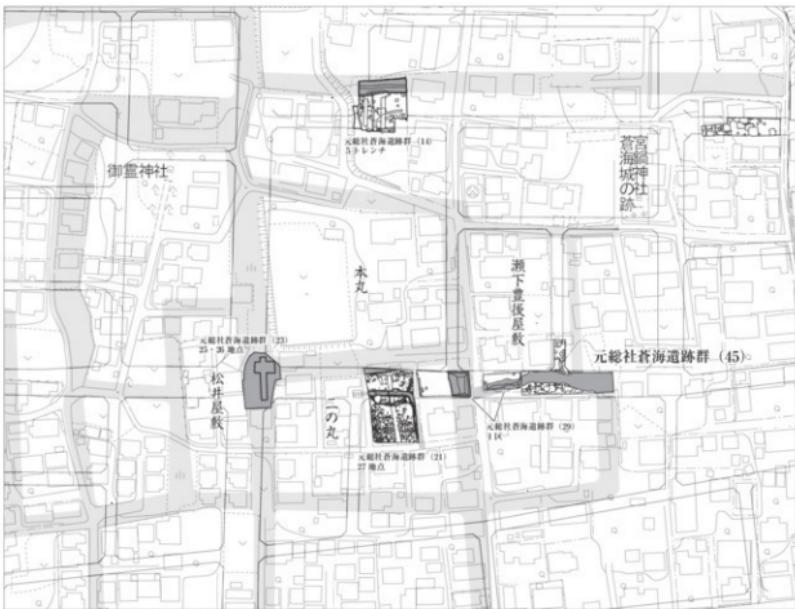


Fig.24 元總社蒼海遺跡群 (45) 周辺蒼海城想定図（神宮・佐野 2010 を一部加筆修）

溝は10条検出しており、W-1・10号溝の2条の遺構については、その規模や形状から蒼海城に伴う堀跡である。W-1号溝は上幅5m以上で深さも2m近いもので箱型の形態を示している。また、本遺構では特徴的な覆土の堆積が見られる。それは黒褐色粘質ブロックを含んだ非常に堅緻な暗褐色の覆土であり（W-1号溝・8～10層）、この土は周辺に存在した土壌の土が埋没したものと推察する。

W-10号溝については先述したように、W-1号溝の先行掘削・北東隅での崩落の危険性があるため断面のみでの記録ではあるが、断面は台形状を呈し箱型と思われる。本調査区北東側で前橋市教育委員会が実施した、平成24年度上野国府等範囲内容確認調査においても検出されており、北から南西に延びる堀である。これらの堀や存在を窺わせる土壌とあわせて、本調査区周辺は城としての区画性や防御性について十分な施設を有していたことが示唆される。なお、W-1・10号溝はグリッドX 227・Y 212付近で直交するが、土層断面の観察からW-10号溝が後出することを確認しており、堀の造り替えをした様子を示しているものと思われる。

今回の発掘調査により検出したW-1・10号溝に繋がる遺構が本調査区の西側の元總社蒼海遺跡群(29)1区、北側の前橋市教育委員会による平成24年度上野国府等範囲内容確認調査でも確認されており、周辺遺跡でもこれまでの発掘調査により、蒼海城に伴う堀跡が数多く検出されている。これらの遺構を総社資料館に所蔵されている「蒼海城絵図」と山崎一氏が作成した縄張図を参考にすると（Fig.24）、位置的にW-10号溝は漏下豈後屋敷東側を区画する堀跡になるものと思われる。しかしながら「蒼海城絵図」、山崎氏の縄張図ともにW-1号溝にあたる堀跡は見られず、遺構の重複関係からW-1号溝が埋まった後の様子を描写している可能性を指摘しておきたい。

また、今回の発掘調査でW-1号溝南側を中心に100基近いピットを検出しており、これらの中には漏下豈後屋敷内に構築された掘立柱建物跡の柱穴になり得るものも多く存在するものと推測される。

元総社周辺は上野国府が存在した場所であり、古代群馬の中心地として知られる。元総社蒼海遺跡群では周辺遺跡を含め、近年継続的な発掘調査が実施されており、多様な遺構・遺物が確認されている。今回の発掘調査においては上野国府に直接関連する遺構等は確認し得なかったが、古墳時代～中・近世にわたる遺構・遺物を検出した。今後も継続して実施される元総社蒼海遺跡群の発掘調査により、上野国府や蒼海域、さらに周辺遺跡との関連性が明らかになっていくことが期待される。

最後に連日の猛暑の中、現地での発掘調査に従事した作業員の方々、現地調査や報告書作成に際して御指導、御協力頂いた方々に感謝の意を表したい。

#### 〈参考文献〉

- 山崎 一 1978 『群馬県古城塁址の研究 上巻』 群馬県文化事業振興会  
中世土器研究会編 1995 『概説 中世の土器・陶磁器』 真陽社  
山下歳信・和久拓照・小出拓磨・日沖剛史 2009 『元総社蒼海遺跡群（21）』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団  
神宮 聰・小出拓磨・山本千春・柴田洋考・日沖剛史 2010 『元総社蒼海遺跡群（28）』  
前橋市埋蔵文化財発掘調査団  
神宮 聰・山田誠司 2010 『元総社蒼海遺跡群（29）』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団  
神宮 聰・佐野良平 2010 『元総社蒼海遺跡群（31）』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団  
神宮 聰・瀬田哲夫 2011 『元総社蒼海遺跡群（34）』 前橋市教育委員会  
神宮 聰・佐野良平 2011 『元総社蒼海遺跡群（35）』 前橋市教育委員会  
神宮 聰・荻野博巳・金子正人 2011 『元総社蒼海遺跡群（36）』 前橋市教育委員会



(44) H-1号住居跡・W-4号溝 全景(西から)



(44) H-1号住居跡 電全景(西から)



(44) H-1号住居跡 遺物検出状況(西から)



(44) H-2号住居跡 全景(西から)



(44) W-1号溝 全景(西から)



(44) W-1号溝 SPA-A' (東から)



(44) W-1号溝 SPA-A' (東から)



(44) W-2号溝 SPA-A' (南から)



(44) W-3号溝・D-2号土坑 全景（西から）



(44) W-4号溝 全景（西から）



(44) W-5号溝 全景（南から）



(44) W-6号溝 全景（南から）



(44) DB-1号土坑墓 全景（南から）



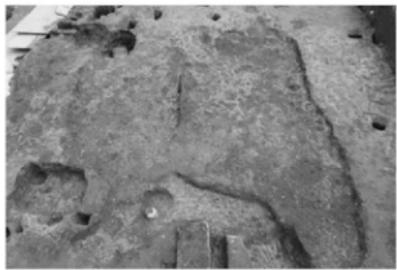
(44) DB-1号土坑墓 人骨・古銭検出状況（南から）



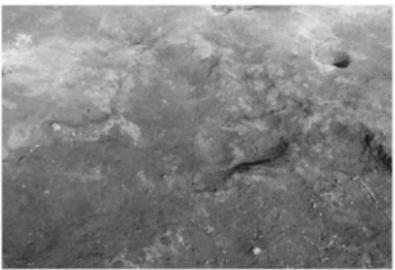
(44) 土坑群1（西から）



(44) 土坑群2（西から）



(45) H-1号住居跡 全景（西から）



(45) H-1号住居跡 電全景（西から）



(45) H-1号住居跡 電周辺遺物検出状況（西から）



(45) H-1号住居跡 貯藏穴遺物検出状況（西から）



(45) H-2号住居跡 全景（西から）



(45) H-2号住居跡 遺物検出状況（西から）



(45) W-1号溝 全景（西から）



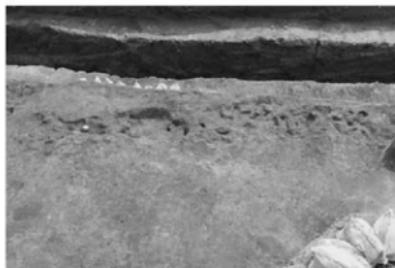
(45) W-4号溝 全景（東から）



(45) W-5号溝 全景（南から）



(45) W-6号溝 全景（西から）



(45) W-7号溝 全景（北から）



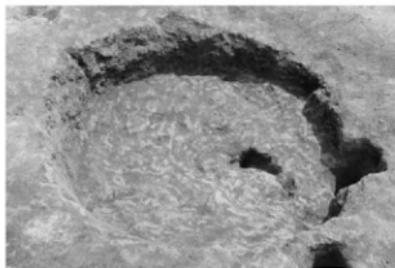
(45) W-8号溝 全景（東から）



(45) W-9号溝 全景（西から）



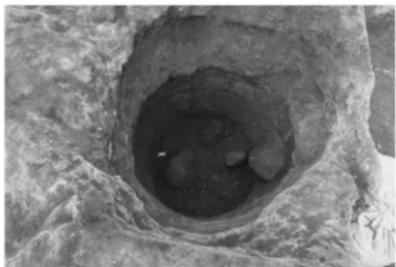
(45) W-10号溝 全景（南から）



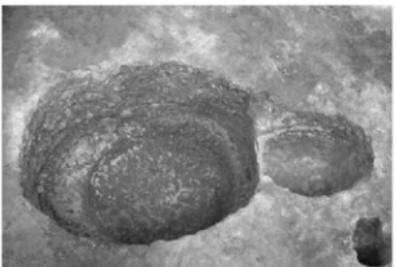
(45) DB-1号土坑墓 全景（南から）



(45) 地下式坑 SPA-A' (南から)



(45) I-3号井戸 全景（南から）



(45) D-1・2号土坑 全景（南から）



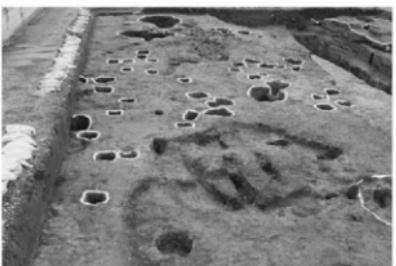
(45) D-1号土坑 碓礫出状況（南から）



(45) D-3号土坑 全景（南から）



(45) D-3号土坑 遺物検出状況（南から）



(45) 調査区南側ピット全景（東から）



調査風景



調査風景

## 元總社舊海遺跡群 (44)



H - 1 - 5



W - 2 - 2



D - 1 - 1 (1/6)



D - 4 - 1



D - 7 - 1 (1/4)



D - 21 - 1



D - 23 - 1



D - 34 - 1 (1/4)



D - 34 - 2



D - 34 - 3

## 元總社舊海遺跡群 (45)



H - 1 - 1



H - 1 - 2



H - 1 - 3



H - 1 - 4



H - 1 - 5



H - 1 - 6



H - 1 - 7 (1/4)



H - 2 - 1



H - 2 - 2



H - 2 - 3



H - 2 - 4



H - 2 - 5



H-2-6 (1/4)



H-2-7 (1/4)



W-1-1



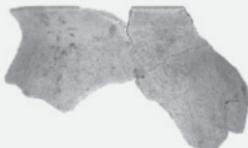
W-1-2 (1/4)



W-1-3



W-2-1



W-2-2 (1/4)



W-2-3 (1/4)



瓶口式H-1 (1/4)



DB-1-1 (1/1)



W-10-1 (1/4)



DB-1-2 (1/2)



DB-1-3 (1/2)



I-3-1



I-3-2 (1/4)



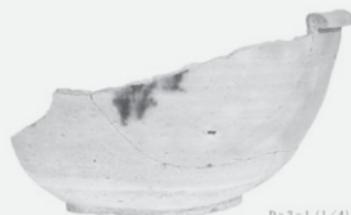
D-1-1 (1/4)



D-1-2 (1/4)



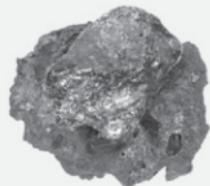
D-1-3 (1/4)



D-3-1 (1/4)



D-3-2 (1/4)



D-19-1 (1/2)



P-12-1 (1/1)



P-48-1 (1/1)



造模外-1



造模外-2



造模外-3

## 報告書抄録

カタカナ	モトソウジャオウミイセキグン (44)、(45)
書名	元総社蒼海遺跡群 (44)、(45)
副書名	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	-
シリーズ名	-
シリーズ番号	-
編著者名	福田貴之・山田誠司
編集機関	技研測量設計株式会社
編集機関所在地	〒371-0031 群馬県前橋市下小出町1-15-3
発行機関	前橋市教育委員会
発行機関所在地	〒371-0018 群馬県前橋市三保町2-10-2
発行年月日	2013年3月22日

フリガナ	フリガナ	コード	位置		調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経		
元総社蒼海遺跡群 (44)	前橋市元総社町 1582-3	前橋市	102021	24A130-44	36°23'16"	139°1'57"	20120926 20121031 320m <sup>2</sup>
元総社蒼海遺跡群 (45)	前橋市元総社町 2115-1、2115-2 2114、2108-1	前橋市	102021	24A130-45	36°23'10"	139°2'18"	20120820 20120930 660m <sup>2</sup>

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
元総社蒼海遺跡群 (44)	集落跡 城館跡 その他	平安時代 中・近世	堅穴住居跡 溝 堀跡 土坑墓 井戸 土坑・ビット	3軒 5条 2条 1基 1基 須恵器 土師器 灰釉陶器 かわらけ 石製品 鉄製品 古銭	・平安時代の集落。 ・奈良時代の粘土採掘跡。 ・蒼海城の堀跡。
元総社蒼海遺跡群 (45)	集落跡 城館跡	古墳時代 平安時代 中・近世	堅穴住居跡 溝 堀跡 土坑墓 地下式坑 井戸 土坑・ビット	2軒 8条 2条 1基 1基 須恵器 土師器 灰釉陶器 かわらけ 石製品 鉄製品 古銭	・古墳時代、平安時代の 集落。 ・蒼海城の堀跡。

### 元総社蒼海遺跡群 (44)

### 元総社蒼海遺跡群 (45)

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2013年3月17日 印刷  
2013年3月22日 発行

発行

前橋市教育委員会文化財保護課

〒371-0018 群馬県前橋市三保町2-10-2  
TEL 027-231-9331

編集  
印刷

技研測量設計株式会社  
朝日印刷工業株式会社